

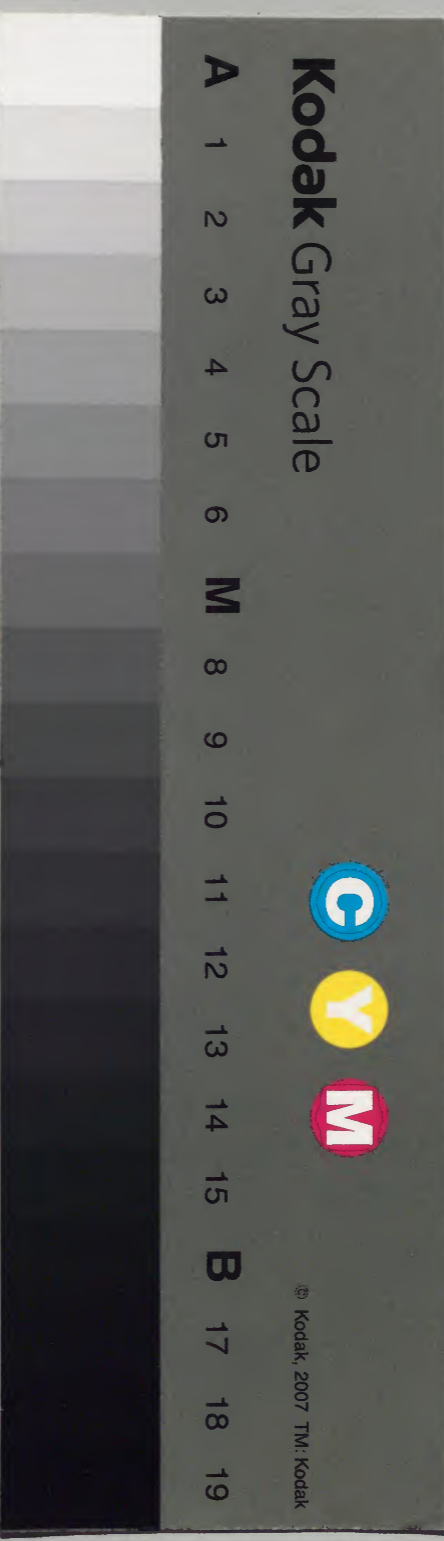
日本書紀傳 十八卷下

和 一〇五二二 號

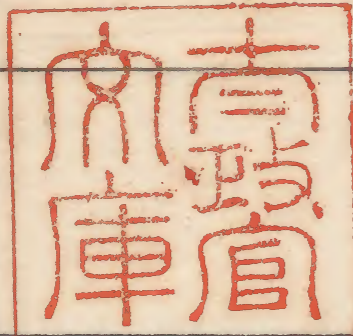
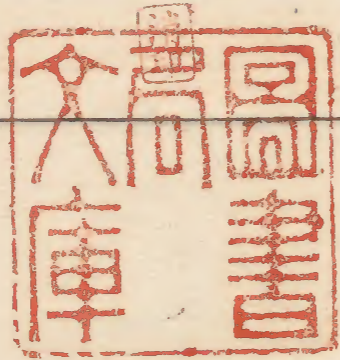
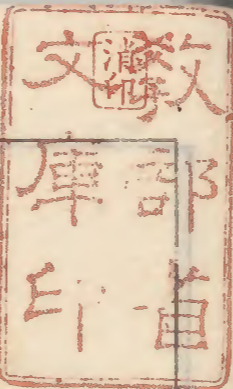
十八

内閣文庫
番號 和 10522
冊數 156 (57)
函號 特 85 1

内閣文庫



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり



の言舉せぬを尊げある事小云ひ思ふハ中々小心
汚る事所爲ありけれ悦ぶ可き時小悦こび勇む可き
時小勇進むを何の悪しき事ハせむんて素戔嗚
尊の御上小於てハ古人も皆説過てる事少くざれ
ハ心して考
奉るざれバ
大小盡さむ
る所多在む
カレソノス
カノ
ミコトノマセ
ナシ
ル
ミコ
ミナ
スデニ

其素戔嗚尊所生之兒皆已

男矣故日神方知素戔嗚尊

元有赤心便取其六男以爲

日神之子使治天原即以日
 神所生三女神者使降居于
 葦原中國之宇佐嶋矣今在
 海北道中號曰道主貴此筑
 紫水沼君等祭神是也燻干

也此云備

其素戔嗚尊所生之兒皆已男矣ハ上あり日神の御言
 小汝若不有奸賊之心者汝所生子必男矣と宣給へる
 其小合せて今如此男御子の生出させ御在る坐しハ
 然奸賊ひ給ふ御心の御在る坐す實ふ赤心の此小至
 りて顯ハれさせ給へるかり故第一一書小相照し見
 る小故素戔嗚尊既得勝驗と有る文小此ハ當れり有
 り然れバ右小便化生男矣矣則稱之曰正哉吾勝と有
 る小此ハ引合ふ所ふて有るなり斯れバ所生之兒皆

己男矣と云ハ既得勝驗と云小異るるざりける者か
又此を以て古事記小速須佐之男命白于天
照太御神我心清明故我所生之子得子弱女と
有る事の誤るるを御紀の如く男得御子を得
させ給はるるを勝驗とも云め何ぞ女御子を生坐
を御心の清明 ○己ハ上章第十一書此二門潮既太急
き驗とハ爲む
の既不同く悉字の義あり傳十三九ナ小引る万葉
十七ナ三丁 小天下須泥尔於保比底布流雪乃と有る須
泥尔此小等一借此小皆己男矣と有る此皆悉男矣の義
あり近き證例ハ正書小彼改五男神悉是吾兒云故此
三女神悉是爾兒也所見たる是なり ○故日神方知
素戔嗚尊元有赤心ハ第一一書小於是日神方知素戔

嗚尊固無惡意と有る一事小て無惡心と云ハ即有赤
心と云事あり委しくハ傳十六四ナ五丁小註せれど猶
云む小ハ上あり日神の御言小若改不有奸賊之心者と
有る第一一書小ハ若汝心明淨不有陵奪之意者と有
り其奸賊之心と云又陵奪之意とも云も即惡心と云
者あり此小至て正哉吾勝と宜給へる如く實小先小
申給へり御言小違はず勝驗を得させ御在り坐て
男御子を成り給はるる故小本より惡心あり御在り
坐ざりけふると天照太神の始て自得させ給へる所
あり然るハ素より疑ひ所思者一御事あり有ければ

皇太神も共小御誓の御事の及ませ給ひける小其御
方小ハ三女神成出させ御在り坐つれば其小ても今
まで疑ハセ御在り坐り事違ひて素戔嗚尊の惡心御
在り坐す程ハ所知者初て有けるを今爰小素戔嗚
尊の成り坐り御子即男御子小渡りせ給へるが故小
愈其御疑の大御心打解させ御在り坐り實小赤心
む御在り坐ける御事を所知者一明しめさせ給へる
者かりける 此の事ハ別かれども天孫降臨章第六一
書小皇孫因幸豊吾田津姬則一夜而有身
皇孫疑之云母誓已驗方知實是皇孫之亂之有が如
く其誓の驗有を見行して其御疑の解させ給へる趣
皆一 ○六男ハ下章第三一書小ハ凡六男兵と見えたる

り此男御子等ハ實小ハ天忍總耳尊天穗日命天津彦
根命三柱小渡りせ給ふ事傳十五 二百九
十五丁 より次々論
定めたるが如く然る小活津彦根命ハ天津彦根命の
亦名あり熊野櫛樟日命ハ天穗日命の亦名あるを同
列小加はりて古より五男神と云稱有を此小ハ燐
之速日命の加ハれり合せて六柱の數小ハ違ハざ
る事ふれども上 三十 小辨へたるが如く其も天津彦
根命の亦名あるが別小一神と混れ出たる者ふれば
猶此も違ハる傳ふり然れども其實ハ三柱神をれど
も古より云馴來つる任小予も其數小事無く時ハ古

き祢の任ふ何時も五男神と云ハ其目易き小従ふ者
ふり其ハ四神出生章と云ふ標名の如く御紀の趣小
テハ一女三男して日神月神蛭兒素戔嗚尊の四
神ハ此れども能正く見ルバ蛭兒ハ八洲起元章小在を
是と爲べし月神ハ素戔嗚尊同神の説小後ふ可く然
ずる時ハ天照太神素戔嗚尊の二神ハ此れども此ハ
其名目を以て云々如く古來云來る唱小後ふ爲ふり
見む人其心
して有べし○取ハ正書小天照太神勅日略故彼五男
神悉是吾兒乃取而子養焉と見えたる取小同トく養
育給ふ義かり古語拾遺小ハ是以天照太神育吾勝尊
特甚鍾愛と有り傳十五三百八丁合也見る可く○爲日神
之子ハ正書小右の如く有り古事記小ハ天照太神告
速須佐之男命是後所生五柱男子者物實因我物所成

故自吾子也中略如此詔別也と有が如く天照太神の物
根小因て成出させ御在し坐る小依て取養ひて御子
と成し奉らせ給へる是かり下章第三一書ある素戔
嗚尊の御言小吾以清心所生兒等亦奉於姆と有ハ右
の詔別の御命を諾て其畏るるを申し聞え奉らせ給
へるふり故是を以て掛まくも可畏き現御神ハしも
全く天照太神素戔嗚尊の大御正統ふて渡らせ給へ
る御事を返しくも明くめ奉る可き者あり然る小其御
子ハしも素戔嗚尊の成し奉らせ給へる小ハ御在し
坐せども物實の方重く有が故小受張て天照太神の

太子小八定よろせ御在り坐る御事已小註るが如し
 故天照太神の御子と云御子と云詔し又天神御子
 と云稱奉る御事して此小日神之子と有る即其意不
 るあり古事記白檮原宮段小吾者爲日神之御子向日
 而戰不良云々自今者行廻而背負日以擊と見え御紀
 小も今我是日神子孫而向日征虜此迎逆天道也不若退
 還示弱禮祭神祇背負日神之威隨影壓躡と有る此日
 神子孫カミヤヒノミコも又右の日神之御子と申奉る小同し意を承
 を曉る可し然れども亦素戔嗚尊小御子小御在り
 所御之國に宣給へる御言有り又出雲風土記出雲郡
 伊努郷の下小見えたる亦令衣伊努意保須美比古佐倭

言津宮段建内
 宿祢歌小多迦
 比流比能美古夜

氣命ハ此の熊野忍隅命小坐る意美豆努命御子と有
 り其意美豆努命と申すハ即素戔嗚尊小渡り也給へ
 るあと思合す可し又歌小多々日之御子と訓るハ此日神之御
 子と云ふ神字を略けるあり古事記日代宮段美夜受
 此賣の倭建命小奉和る歌小多迦比迦流比能美古夜
 須美斯志和賀意富岐美と詠と朝倉宮段三重妹の歌
 小許斯母阿夜尔加志古志多加比加流比能美古と詠
 るを天皇を指奉るあり万葉小ハ一 二十一丁 小ハ
 隅知之吾大王高照日之皇子ニ 六丁 小明日杳能淨御
 原乃宮尔天下所知食之八隅知之吾大王高照日之皇
 子又 二十 葦原乃水穗之國乎天地之依相之極所知行
 七丁

神之命等天雲之八重撥別而一云天雲之神下座奉之
 高照日之皇子波又三十安見知之吾王高光日之皇子
 久堅乃天宮尔神隨神等座者三十三八隅知之吾大
 王高光吾日乃皇子乃又十七八隅知之吾大嗣王高輝
 日之皇子茂屋大殿於久方天傳來白雪仕物十三五
 八隅知之和期大田皇高照日之皇子之聞食御食都國
 るども有て右等ハ天皇をハ皇子等をハ申奉らる
 り又右の高照高光高輝共ハ多迦比迦流と訓て天
 照と云むが如く日ニ云む發語ある事誰も知れるが
 如し傳中一知天津日高の事成就て云々如く遠理命を指れ云
 又古事記海神宮段ハ此人者天津日高之御子虚

今方第一行ハ玉手
 次火之山乃權原
 乃日知之御世從
 有ハ神武天皇ヲ
 申せりて唯ハ日
 神ハ比へて日知ハ
 申せり

空津日高矣と有る天津日高之御子と申すハ此も唯
 天津日之御子と申す事ハ言の上ハ天津の語を冠
 せたるもの別義有ハ非ず此の例あり又仁明天皇
 御紀ある爲奉賀天皇寶算満于四十歌ハ瓢箪乃天照
 國ハ日宮ハ日知ハ御子曾云くと詠るハ日知ハ日を
 知ると云事ハ日神の御事あり然れば此ハ日神之御
 子又日之御子の例ハ直る可き古語あり備如此く称
 奉り來る古語の有るハ先師等の已ハ云れたる如く
 我が皇御孫尊ハハ天照坐日太御神の大御子ハ渡
 らせ給ハれば何千萬繼の御後ハ至る迄ハ直ハ日御

食けしを知て
下り

子小御在し坐る御事あるが其本ハ一也此小爲日神
之子使治天原と有し起れりける者小御也御在し坐
ける因云桓武天皇延暦八年御紀小皇太后の和氏上
河伯之女感日精而所生と有ハ古事記中卷天之日牙
段小新羅國有一沼名謂阿具奴摩此沼之邊一賤女晝
寢於是日曜如虹指其陰上亦有二賤夫思異其狀恒伺
其女人之行故是女人自其盡寢時一姪身生赤玉と有る
類の怪事ありを其九年七月の下小夫百濟大祖都慕
大王者日神降聖奄杖餘而問國天帝授籙惣諸韓而稱
皇と記されたり候痛き事あり此皇太后の香種と
出給へるを不足ぬ事と思ふ余り固然り理屈を
附て奏せりしを信と諾ハせ給へり否や知バハ根無
日神の實小御靈を降し給へりや否や知バハ根無
事あり我が天皇尊を日御子と稱奉れりハ然る根無
し言の類ハ非ず正しく高天原小御在し坐て天地
小照徹りせ給ふ日神の御子小御在し坐て天地
坐る故小然稱奉れりあり誤る事勿れ○使治天原ハ

上九令治天原の下小云るが如く高天原小して天津
日繼小定奉りて給へる御事を申奉れりあり然るハ
此より後小彼上章第十十一書小見えたる保食神の
御事有り其文小既而天照太神在於天上日聞葦原中
國有保食神曰尔月夜見尊就候之月夜見尊受勅而降
已到于保食神許と有る事意を稽多る小彼四神出生
章小所見たる二柱御祖神の大御言小吾已生大八洲
國及山川草木何不生天下之主者歟と宣給ひて生坐
る珍子二御子御在し坐て天照太神ハ一也高天原を
所知者一又素戔嗚尊亦御名月根國小入給ふ可き

御心坐て此小辞見小参上らせ給ひければ葦原中國
ハ一も君主無き國の狀小るむ成れりけるを二柱御
祖神の御言の幸違ハざりけり一も天照太神と素戔嗚
尊の誓約の御中小天忍穗耳尊の生出させ御在り
坐ければ物根小就て天照太神ハ一も大御父の如く
生坐る由縁を以て素戔嗚尊大御母の如く御在り坐
て疑も無く天下之主者として此國土を統御す可き
るむ此天忍穗耳尊小渡らせ給ひける此を以て其御
子を皇太子と定奉り給ひ天降して此天下を所知る
令坐むと思しければ先國土人民を統御し給ふ御

上小ハ先世人の性命を續ぐ食物衣服住宅の備を設
させ給はずる有バるざりける御心御在り坐け
る程こそ有ければ葦原中國小保食神云神ある其神
と顯ハルさせ御在り坐ければ其素戔嗚尊をして見
せ遣はし給へる者ありけり
其時素戔嗚尊ハ其保
食神を教給ひ保食神
ハ死坐ると有れども其ハ僻傳ある可き事 卍攝津風
土記小體ある証者を引てこく傳十四卷小云りキ
若て素戔嗚尊ハ保食神の不禮げあるふ忿り坐て天
小上りて復命し給ハバ又更小天熊人を遣して往て
消息を令者給ひける小其保食神の身より成れる物
を悉小取持去て天照太神の御許小奉進るれける小

于時天照太神喜之曰是物者則顯見蒼生可食而活之也乃以粟稗麥豆為陸田種子以稻為水田種子又因定天邑君即以其稻種始殖于天狹田及長田其秋垂穎八握莫之然甚快也又口裏含蜜使得抽絲自此始有養蠶之道焉云事見えたり偕此顯見蒼生ハ天下の人民の事少て天上の神等を云ふ非る事誰も知らざる如く此小天照太神の此事を宣給へるハ天神御子を天降し奉給ひて天下の人民小其思頼を蒙らしめ又天下の人民の日給を以て天神御子小令獻給ハむ大御心小御在り坐る故小今高天原小在る種子の事の天

下の人命小係て詔給へる者ありけり然れ其事を試みさせ給ふ為小陸田種子水田種子を令殖給ひ又養蠶の事をも起し給ひ各割據て此小仕奉る者ハ謂ゆる百姓あり其上小立つ者ハ天邑君少て此國土小云ハ國造縣主の如き職も己く出來りて天忍穗耳尊を天津日繼と定奉給ひて天降し奉給ハむ御心構御在り坐る御為小君臣民の大綱此小高天原小して成出來れる者とある所見たりけり若る御事共ハハるやハ此天下國土人民の為小して彼ニ柱御祖神の何不生天下之主者歟と宣ハり御政を竟給ハむとの神慮小御在り御事寶鏡開始章以下の趣を以て知る可し若て此の第一一書

小三女神を天降し給ふ御言小汝三神宜降焉道中奉
助天孫而為天孫所祭也上と見えたるふど此天下を
所知食す天皇として天忍穗耳尊を天降し奉らせ給
はむ御心と含めて宣ひ遣し給へり大御言あり又天
孫降臨章第三一書小天照太神の豐葦原中國是吾兒
可王之地也と宣給へり大御言の天坐大ふどハ卒爾
小宣へりふど預て備設させ給へり天津日繼の
御支度の高天原小て稍小整へるが故小宣給ふ所を
り又下章第三一書小素戔嗚尊の請好照臨天國自可
平安且吾以清心所生兒等亦奉於身已而復還降焉と

と有り然る小寶劍出現章第五一書小素戔嗚尊曰韓
郷之島是有金銀若使吾兒所御之國不有浮寶者未是
佳也乃拔鬚髮取之即成杖拔腋毛是成檜尾毛是成
腋毛肩是成椽樟已而定其當用乃祢之田杖及椽樟此兩
樹者可以為浮寶檜可以為瑞宮之材腋毛可以為顯見蒼
生奧津彙戸將卧之具下略と見ゆ此ハ被逐て降坐し程
の事あら小吾兒所御之國と宣給ひて外國より皇朝
へ物を渡し奉る料の浮寶を作る事を始給へるふど
後世外蕃諸國より珍寶を貢ぎて獻る可き事の起此
小在り此小吾兒所御之國と宣せら事ハ已く高天原

今と知なきあり
権傳二十八卷の委
しらくまひ明し奉
るを合せ考ふ可
き者

小御在り坐し時小日神の御子として此國小天降
奉り也給ふ可き御定の御在り坐たりけり然らず
バ斯討り懇到小宣ひ勞りせ給ふ可き御事の御在り
坐まじき者ありを其浮寶ハ皇御孫尊の御許小物
を貢奉る船の汝汰あり又瑞宮
と云ハ皇御孫尊の天津日繼所知者大宮の御事か
り顯見蒼生ハ皇御孫尊の統御し給ふ天下の公民を
云あり此の御言舉の一として皇御孫尊の御事あり
ざるハ無を以て其御子を日神小奉りせ給ひ日神の
御子として天降し奉り也又古事記御天降段大國主
神の御言小此葦原中國者隨命既獻也唯僕住所者如
天神御子之天津日繼所知之登陀流天之御巢而於底
津石根宮柱布斗斯理於高天原氷木多迦斯理而治賜

者僕者於百不足八十垺午隱而侍と申奉給へり此所
知之を延佳本記傳本共志呂志米佐牟と訓たれど
も非あり斯呂志米須と訓て高天原小て天津日繼所
知食す天神御子の御巢の如く小僕が住所をも定ま
せ給へと請奉りせ給へり者もて古語拾遺不謂ゆ
る如天上儀と云事あり此時ハ天神御子の未天降坐
りたり間あり小其御殿未此國少て有る爲なりの如くとハ何で申給ハむ
玉垣宮段あり同く出雲大神の御言小修理我宮如天
皇之御舎と諸給へるも天皇の御舎と云物有る其如
く修理給へと云事ありが如く天之御巢と云物有る

六編又傳世一卷
六百十の此事を
一く注せられ合せ

其如く小と云事なれば所知之ハ斯呂志米須小非ず
るハ文義通え難き者ありり此御言を以て此已く
天忍穗耳尊ハ高天原小天津日繼所知食御在り
坐御事を知べく又其天津日繼所知食す宮所ハ
此天照太神の日宮の外小在て右小謂ゆ天之神巢
るりける者あり天之神巢と云ふ巢ハ棲處ハ事ハて
祭詞講義小委天之神殿と云ふ等しき事ハ大殿
るを見て知べきあり然るハ右小引る第十一書小
天照太神の是物者則顯見蒼生可食而活之也と宣給
へるハ天下人民の爲小宣給へるハ此ハ定天邑君と
見えたるも其天忍穗耳尊の御爲小定奉りて給へる

あり然るハ天孫降臨章第二一書御天降の所小天照
太神手持寶鏡授天忍穗耳尊而祝之曰云々又勅曰以
吾高天原所御齋庭之穗亦當御於吾兒と見えたるも
此大殿祭詞小高天原ハ神留坐須皇親神魯企神魯美
之命以皇御孫之命天津高御座坐天津爾乃
鏡鏡捧持賜天言壽宣皇我宇都御子皇御孫之命
此天津高御座坐天津日嗣万千秋長秋尔
大八洲豊葦原瑞穗之國安國平氣所知食事依
奉賜比以天津御量事問磐根木根立知草能可岐
葉言止と有る其章小合せ考る小此天忍穗耳尊

の初て御事依され奉給へり御時ある事右小以天津御量云々ハ彼國平の御事あるを合せて知られたり若て其天津高御座小令坐奉給ひ天津日繼を事依し奉らせ給へる上ハ其御天降り以前小高天原小久しく御在り坐けめども天津日繼ハ此天下の爲小所知食し御在り坐けりふしが天邑君の君主として天原を所知食り如き御有狀小ハ御在り坐けめども其天津日繼ハ天下を所知食す大御政の始小なる御在り坐けり後世國守或ハ大宰府あるも小任され奉りるが其國小赴くまでハ京小在りて同く京官の如く仕奉りて在り雖も任國の人小其行ふ所も行べき任國の事を執て在り如く○日神

所生三女神とハ右小素戔嗚尊所生之兒皆已男矣こ有る對へ云るあり諸此より以下ハ第一一書小乃以日神所生三女神令降於筑紫瀨因教之曰汝三神宜降居道中奉孫助天孫而爲天孫所祭也こ有る全く一條の傳小て互小精粗有るのこあらば其心して能合せ説べき所あり其中小殊小此小使降居于葦原中國宇佐島矣こ有るハ何れの傳小も漏れらる事あるを此小出たる事甚尊き御事なり其ハ此御神の御社の御事を神名式小豊前國宇佐郡此賣神社比名神大のこ有て八幡大神御鎮座の後小ハ宇佐宮三所の一小敷ありしを給ふ御事と成ぬる

を斯る傳ふどの無くバ此比賣神社を何れの神と
思成る奉る可き其不就て此ハ甚々愛たり賜物不
るむ有ける 御紀小斯る傳の有てた小後世小ハ八幡
大神の御名の之高く成以て御在り坐て
此比賣神を玉依姫命と稱奉る小打混る海神
の御女の玉依姫命と爲るる種々の異しき説共の
出來りて終小曉らる大昔より ○所生を第二書
一人だ小無きハ予憤る所以あり
小てハ例の邪志麻世流と訓つ此ハ本小後ひて阿禮
麻世流と訓つ此意ハ傳四 五十
四丁十五
三丁 小ル云れど
も猶引漏せり證も有て未言義を盡しれハ今茲小
又云バ其ハ古事記白檮原宮段小然而阿禮坐之御
子名云々又其其訶志比宮段小渡筑紫國其御子者阿

禮坐故號其御子生地謂宇美也あど見え太神宮月次
祭又神嘗祭詞小阿禮坐皇子等 子惠給此
毛 万葉四 二十
五丁
小事毛無生來之物あど見えたる皆共小生る事
を阿禮と云レテ言意ハ頭 同三 三十
七丁 大伴坂上即女祭神歌小久
堅之天原從生來神之命と詠る左書 供祭大伴氏神之時
と有ルバ天より降坐る天忍日命の御事を生來と云
る小て言意ハ頭來の義と聞ゆ神代バ皇御孫尊を明御
神とも頭人神と申奉る小其意味等し可 中
行事秘抄小引る賀茂大神舊記小彼玉依媛命乃丹塗
矢の化れら美男小過て生坐り御子の天小上坐
後小夢小各將逢吾造天羽衣天羽裳炬火祭飾待之又
鎧走馬取與山賢木立阿禮と有る阿礼ハ幡あど見えが神

の顯坐む料ハ立ル故ノ又續紀第一詔小高天原ハ事
名シテ生ノ義ハ同ト始テ遠ク天皇祖御世中今至ル天皇御子之阿禮坐ハ年
弘繼々ニ大八島國將知次ト云ハ有ハ神代ノ以
來世ニ相繼給フを云ハり此例ハ万葉一十六ニ玉子
次畝火之山乃檀原乃日知之御世從阿禮座師神之盡
樛木乃弘繼嗣尔天下所知食之字四十二小神代從生
繼來者人多國尔波滿而六十四高敷為日本國者皇
祖乃神之御代自敷座流國尔之有者阿禮將座御子之
嗣繼天下所知座跡八百萬千年矣兼而定家年ト有ル
と皆御子孫の生繼せ給ハる由あり此トハ同言ハる

一ニ藤原官御井歌の短歌小藤原之大宮都可信倍
阿禮衛武處女之友者吉呂可聞ト有ル阿禮衛武ハ
生繼グ義ハ非ズ其ト混シ事ハ勿レ此ハ其ハ在著あり可ク
不出タル事ヲ在著俗ハ云ハ類ハ可ク但本小武
を哉小之吉呂を之吉召ト誤ルを鈴屋翁説ハ依テ
改引ツ諸類史天長八年十二月壬申替賀茂齋内親王
其辞曰云々皇太神乃阿禮字止賣尔云々有ハ令在
少女ト云ハ事ハ右ノ生衛武ハ同ト可ク此
二ノ阿禮ハ語本ハ顯ル物ハ其ハ意味ハ異ナり右ト
混シ可ク○宇佐島ハ和名抄郡各小豊前國宇佐ト見え
たる是ハかり國造本紀小豊國造ト云ハ有テ次小宇佐國
造檀原朝高魂尊孫宇佐都彥命定賜國造ト見えたる
バ當昔宇佐國ト云ハ神武天皇御紀小行至筑

國菟狹菟狹者地名也此云宇佐時有菟狹國造祖号曰菟狹津彦菟
狹津媛乃於菟狹川上造一柱騰宮而奉饗焉見之古
事記ハ故到豊國宇汝之時云々見えたる皆此地
の事なり宇佐島と云事ハ松下見林説小宇佐島非海
島二川周流神山故有島名と云るが如く又八幡本記
宇佐宮條小凡て此三所の御宮所ハ山即小倉山是なりかり巡小川流
れて島の如く此故小日本紀小宇佐島と称せり西
より北コレモカハ寄藻川流北南より東オモガハ御物川流る即其下
小て一と成る小倉山ハ西川の中小在り譬ハバ伊豆
國狩野川の内小在る所を蛭小島と称し信濃國千曲川

屏川の間小在る地を川中島と号け伊勢國の津島長島
おど皆川中小在る故小島と云るが如く必海中小在る
地をのゝ島と為る小非ずと云り此小能通元たり
右の寄藻川の川下を月瀬川とも淺瀬川とも云ひ水
上を兵橋川と云ひ凡てを驛館川と云小右小云る菟
狹川是なり其一柱騰宮の趾ハ宇佐と云名義詳か
其驛館川の水際小在ると云り
ず桂譽重ハ或時袁佐小て長字の義ハふむと云るを
八年許以前小事の序小話りける事小何の心も無
く聞流ハたりしハども今思ハバ實小然る言あり其
ハ此小道小主貴と申奉る御名も有ハて天照加太神素戔鳴
尊の長子ミコノミ小御在し坐て天より降ハせ給ひてハ他小

合見え又高橋氏文
小膳職ヲ長止上
總國郡談路國
長止定天

此方無く尊く高く御在り坐ハ然る物小て道中
御在り坐て其貴ムナと申奉る神小坐せハ實小長ヲサと長
と祢奉りツ可き御事ニあり己小古事記小見えたる
が如く其夫神と坐す大國主神ニす此須勢理昆曹命
小ハ甚く恩頼を蒙ウりて奉給へり御事ノ御在り
坐を以て小長ヲサと云義の虚ウりてざるを曉る可く
む天孫降臨章第一書小所見たる五部神と云も五
伴長神ト云事小て其部ニの長者ヲサを云あり又成務天皇
御紀小國郡立長縣邑置首即取國之幹ヲサシメキ者任其國郡
之首長オホトヲサニと有る此小て長の義明ニかり斯ハバ宇佐

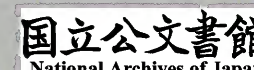
ハ表佐小て此大神の天下小長ヲサと御在り坐るニ可
く備入傳十五百小云る神名式大和國高市郡飛
鳥川上坐宇須多伎比賣命神社を大和志小在稻淵村
祢宇佐宮と有を以て思ふ小宇佐又宇須と通ひて古
事記の宇志波祢流を祝詞式小宇須波伎坐世と有る
其ハ長帶ヲサの義ヲありを合せ考る小宇佐を表佐と云事
返ニも聞えたる説ありリ其多伎比賣命ト申すハ
湍津姫命ノ御名小同ト
キ事己小云り表佐と宇佐と通ス證ハ神功皇后御紀
小儲弦を表佐由豆流と訓ヲるを古事記小ハ設弦一名
宇佐由豆留と有り又仁徳天皇二十二年神名式小豊
御紀大御歌小千碓由豆流と有る是ハあり神名式小豊
前國宇佐郡八幡大菩薩宇佐宮大神比賣神社大神

帶姫廟神社名神大と有る是即宇佐宮三所の御事なる
が此此賣神社大あり天より宇佐島に降坐し三女神小
て謂ゆる玉依姫命と称奉りて神代より鎮り右す宮
所小御在り坐ける二十二社注式小古老口傳云應神
天皇神功皇后玉依姫称之三所と有る是かり八幡本
記小神名帳小宇佐郡三座並大と書るハ三所各別小在
小非三所の神殿東中西相並ひて別小立り列りて
一宇有小非中社の御前小告殿コトノミヤ有て此小て三社小
幣帛を奉り賽カササし祈祝を成す故小告殿とハ云ふ
又三社共小谷東西小隔有て内院外院を別つ南向小

して西を第一殿と申を第二殿と申東を第三殿と
す第一殿ハ即八幡大神を祭り奉る中略第二殿ハ此賣
大神是ハ天照太神の生ます所田心姫命湍津姫命市
杵島姫命の三女神の御事あり八幡大神未宇佐小頭
れ給ハざりし時より己小鎮座し給ひし尊神ありバ
此御神を以て宇佐の地主の神とハ幡大神を以て
賓とす延喜式等小古來宇佐八幡宮と称せずして八
幡宇佐宮と称するハ此故とある中略第三殿ハ大帶姫
尊即神功皇后の御事あり下略と有る如く後小ハ八幡
大神を以て第一と爲る事小てハ有るハ幡宇佐宮小

てハ比賣神社中殿ノして其東西ハ相殿ノ御在ノ坐
す事申すも更なるハ八幡大神ハノ掛ノおノも恐ノき
天津日繼ノ御在ノ坐ガ故ノ小尊ノ奉テ萬ノ先ノ立テ
持成ノ奉ルリノ何ノ時ノ無ク比賣神を相殿神の
如く思成ノ奉ル事トハ成レたレどモ宇佐宮ノハ
然ハ申スルノ御事ナリシ又石清水八幡宮を
幡宮トて多ク立セ給ヘルノ其本ハ宇佐宮ノ移リ奉ル
所ノ有ル故ニ比賣神ハ神ノ渡ル給フ可キ事申す
も更ナリ然レも宇佐宮ノ本ノ神ノ除キ
て其をノ爲ス謂レ絶テ無ク可キ事ノ故
此ノ先ノ比賣神の御事を説畢テ然後ノ八幡大神の
御事を註ス中ノ諸此ノ使降居ニ云フ事ハ通證ノ引ル玉
可キ方ナリ

木某ガ説ク小三女神始降臨ノ處曰御許山ニ距神宮東五
十町絶頂有磐石常湛清水旱魃莫涸雨雪不汚称之石
清水後遷テ祭於今社地云フ有ハ社傳の舊説ヲ聞エて
此ノ能合ヘリ其詳ヲ事ハ八幡本記ニ其を八幡大
神の顯レ坐ノ時ノ事ト爲ル事決メて僻説ヲ知ルも
其文小馬城峯宇佐宮ノ五十町東南の隅ニ當レれト
又御許山トも号ス社説ニ傳フるハ八幡大神菱形池
小て神告有前ノ此所ニて靈光を顯ハ給ヒける
小照耀ク事日光の如クあり故ニ其光の移リ所
を日足里ト云フ後ノ八幡宮三所を此山ニ祭ルとテ



谷石体一の石体高三間詩又御許山の絶頂般石
の中其ニハ此より低く奇異の神水廣五寸深一寸六分有り此水大雨一も増ら
ず大旱減も誠減ず大寒一も盡一すと云ふ古勅使参詣の
時ハ此靈水を酌取て天子も獻せしめしや凡
此山小大官司并任の特一代一度参詣す其式法様
有り其取次小後川とて御後する川有りと見ゆ疑ふ
くくハ意の盡さるる所有一可一其八幡大神の神
告有し二ハ前字ハ遥一小以前二ハ神代三ハの事一を
ろを粗く聞持ちて書る故小然彷彿しく成れるを
り其日足里の石体ハ決めて三女神の御形あり其ハ

白井宗因説小今世宇佐を以て八幡大神の降臨一す
八幡ハ中古以來の鎮座湍津姫等の神を祭る事ハ神
代以來の事あり石体小て三女並坐す今小宇佐官司
の始祖一ありと語る一有を以知べし又御許山絶頂の
神水ハ謂ゆる八幡宮の石清水の事一して此三女神
小ハ甚止事無き所由有る事傳十七四天真名井の
下一云るが如し然一ル一此三女神ハ始小御許山小天
降著せ給ひ此日定足里小鎮り御在り坐たりけし故
ふ小日定足を今此阿志と訓む事一してハ有れども若く
バ古き唱ハ此多志ありつらむ然一所思る由ハ高天
原より素戔嗚天神小屈て天降り御在り坐て此宇佐
島小て日定足坐る謂一してハ有む其日足一云事傳

十五卷 百十丁ある後紀小弘仁十二年八月戊
子養云事の下小云りき後紀小弘仁十二年八月戊
寅以大神宇佐二氏爲八幡大菩薩宮司と有る此事又
臨時祭式小凡八幡神宮司以大神宇佐二氏補之不得
雜補佗氏と見えて恒父の御定かり然れども右の二
氏の八幡大神小仕奉る事ハ此三女神小属たる事な
り其ハ地神本紀を以て大神氏の世系を稽ふる小大
己貴神娶邊津宮高津姬神生一男一女と見えて其
御子都味齒八重事代主神有り故其大己貴神より數
ハテ十一世孫大鴨積命此ハ賀茂朝臣の出自なり次
大友主命此命磯城瑞籬朝御世賜大神賀茂君姓と有る是

姓氏錄 大和國神 小大神朝臣云々大國主命之後也と
有る氏の事かり傳十五 三百十 小云るが如く筑紫胸
肩君の三女神を所祭る小宇佐の比賣神小大神朝臣
の仕奉れる也皆共小遠津祖母神ハ坐セハこころ此宇佐宮を持齋ハ坐セハこころ此宇佐宮き仕奉れる
かり續紀小天平勝寶元年十一月辛卯朔八幡大神祢
宜外從五位下大神社女主神司從八位下大神田麻呂
二人賜大神朝臣之姓と有るハ比賣神の所属あるが
る小似たりと雖も己小當昔八幡比咩神と列ね申す
世と成れりハ少も抱はる可小非ず又宇佐氏の
事ハ八幡本記小宇佐津彦命を以て元祖とす其子孫

△委一ハ傳三十
五百小大神氏の系
記を三ア三ア見
ベミコト

今此より先代小此
小住者了有けむ
思しきことを其

相續きて宇佐公たり其後胤小宇佐公牛人云有り
此時始て大宮司小任ず是大宮司の初任かり此時ハ
田心姫湍津姫市杵島姫の三神を齋き奉り是今の
中殿の御神かり牛人の男押領使宇佐公池守の時小
八幡大神始て神と頭ハ此給ひぬと云り此等を以て
上世右の二氏の仕奉りし大神ハ此賣神の御在り
坐けろを八幡大神を齋奉り後ハ同社の事ハ有
けしバ此彼を別たずして共小仕奉る可き筈なる事
云も更ふり又同記小大神氏ハ祝職小して此義を以
司小任す其後五六世大宮司職小補任せりとやと
云り此義ハ田麻呂が遠祖なる趣なる六何れの御世

今此より下キ
了八幡大神の比
疑神託の事
有り宇佐公池
守小在り

△今後能思ハ仲
意天皇九年御紀
小大三輪大友主君
大まの一人して西征の
供奉しや此子
孫の此に留りては
奉れる可き事
傳り卷云云と以知
べき

の頃の人とも知るは此の右の宇佐公牛人
同時ある可し諸大神氏ハ此三女神の御末小有け
しバ仕奉るも然る事あるを宇佐氏の事ハ其國造小
有けしバ部内小して止事無き所由有る神小坐り故
小仕奉りるあり此の事ハ諸國の國造の部内大
社の神主を兼て仕奉りし由祈年祭詞講義小己小
云り又同記小宇佐の四姓小して宇佐大神田部漆島小
云有り皆神職たり然れども宇佐大神西氏の外補任
の例無し云々云り右の田部漆島の遠祖尋ぬ可きあり
太神素戔鳴尊の長子と坐て佗小此多べ奉る女神の
御在り坐ざりければ打任せて唯小此賣神とのこと
そ稱奉りけり其ハ此後小幸坐る鎮給へる宗像宮
小してハ瀛津島姫命中津島姫命邊津島姫命と申奉
るも某島と云ハ各其御在り坐る地名を申せらるれば

御名小八非ず唯其姬命（此）を申すの（此）此（此）姫神（此）を指たり
 るれば右の某島姫命八字佐比賣神と申す不異あり
 ざるを思ふ可し續紀天平勝寶元年十二月廿七日丁
 亥の所小奉大神一品比咩神二品と有る大神ハ八幡
 大神小坐小次小唯小比咩神との（此）有て此より下小
 天平勝寶二年二月戊子奉先（此）一品八幡大神封八百
 戸前四百廿戸今位田八十町前五十町今加三十町二品比賣神
 封六百戸位田六十町と有り又天平神護二年夏四月
 丙申奉八幡比咩神封六百戸以神願也又神護景雲元
 年九月乙丑始造八幡比賣神宮寺と續けるが如くか

若て三代實録
 貞觀七年七月
 十七日八幡宮告文
 小八比咩大神（此）
 有り傳（此）
 小云々如く賀茂
 御祖神社此宗
 像大神小渡と也
 給へると其宮（此）
 比賣大神と申奉
 るは同じきる傍
 又

るは八幡大神と比咩神と二神の御事ありあり文徳
 天皇實録小天安三年五月辛酉朔辛未八幡比咩神授
 一品と有ハ八幡之の義あり此等を以て往古小打
 任せて比賣神と申奉れるハ此三女神小渡と也給へ
 る御事を曉る可し左經記小姫宮と有れ此御事あり
 春日祭詞（此）小比賣神と有ハ天兒屋命小並べて申せり
 かり（此）祭詞（此）小比賣神と有れ比古神小並て申せり
 ありと宇佐宮なる然らず其夫妻相並坐小非ず
 て比賣神と稱奉れるハ右の如き別ある故有る事ぞ
 り又此比咩大神の御事を二十二社註式（此）小古老口傳
 云とて玉依姬命と有り又其石清水條（此）も同く玉
 依姬命と書し二十二社神体秘記（此）も玉依姬命と有

り又神社本記小石清水中應神天皇東神功皇后西三
女神本殿并次第中西東之并新善法寺如此又中東西之并
す田中坊善法寺如此是東を玉依姬命三女と傳ふ故かりと見
元又注式箱崎宮條小一應神二聖母三竈門と有ハ神
名式小筑前國御笠郡竈門神社大神と有る御社の事寶滿明神
小て八幡本記小祭神玉依姬命と有り又神社本記小
恐三女神也竈門山清水在降玉依姬鎮座也と見え
ルバ宇佐宮の比賣神と同神なるを曉る可く又近江
國武佐八幡宮社傳小田心姫命瀛津島姫命市杵島姫
命此三神号玉依姬命と云い又巖島道芝記小安藝國

安藝郡多家神社の境内小八幡別宮坐すすかり筑紫
國宇佐宮を移奉り三女神を祀ると云て次小玉依八
幡宮と云を舉て八幡別宮小同と云らし三女神ハ
玉依姬命ふり以てあり是八幡の比咩神を玉依姬命
と稱奉る證例あり又傍例ハ傳十七五十一小云る如く
賀茂御祖神社二座ハ二十二社神体秘記小玉依姬命
大己貴命と有が如く然る小其玉依姬命を鴨神饌記
小ハ日女大神と有り神佛冥應編小ハ宗像姫神とし
有が如く賀茂小ても此三女神を姫大神とし玉依姬
命とし稱奉れりを知べく傳十五二百十七五十一
八丁三十一小

云々率共を考合せて其然る所以を曉る可き者あり
然るハ八幡本記小雜書の説ハ此賣大神を海神の女
神武天皇の御母玉依姫と稱す俗説ハ此ハ隨ひ玉
依姫を湍津姫とす此無稽の妄説あり證之爲ハ
古如何ハと云ルハ此ハ天照太神の勅ハ往
古より此ハ鎮坐す御神ハ八幡大神此地ハ顯ハ
ルハ七給ひ後ハ此ハ大神を退け奉て其祭を捨ベ
キ様無く正しく三女神ハ故ハ延喜式ハ三女神
と稱する事尤ふ可き神武の御母實ハ尊む可し
雖も此御社ハ祭る可き理無く云くと云ハ然る言
ふハ海神の女と思ひて説を成せるハ甚く未しき
説と云ハ猶海神の女の外ハ天孫降臨章第七一
書ハ萬幡姫兒玉依姫命と云有り又山城風土記の鴨
建身命ハ女小玉依媛命有り又崇神天皇御紀ハ活玉
依媛と云ハ見えて此三女神を玉依姫命と稱奉る共
小同名ハ異神ハ五柱有て皆共く別ハ故ハ貝原
縁有て負坐る御名共なる事を知り故ハ貝原
ハ然る無稽の妄説又彼應神天皇を八幡大神と稱奉
を吐出たる者あり

△宇佐大神宮縁
起ハ神功皇后九年
冬十一月十四日辛卯
被應御于於彼棟
枝之玉子御誕生
此時自龍宮城獻
御初衣其神八幡
祿ハ枚與と云ハ此
龍宮城と云ハ此
三女神を海神の
玉依姫命と取誤
ヘナリ事ハ初衣
三女神より然る御
初衣を進しと
レハ初衣ハ此を
八幡の号の起リ
ハ成ハ難クアリ

る御事ハ此三女神の靈威を蒙奉り七給ハリ所縁
小據て起ル御説ハ所見たりける其ハ傳十五
三百二
十八丁小引對馬國上縣郡三根郷佐賀村宗形神社
の社傳ハ所祭神功皇后之應神天皇あり古昔神功皇
后新羅國より御歸陣の時此地ハ三流の神幡を殘し
置て異國を降伏し寶祚の永久を誓給ひ武内大臣螺
蠟を取て放生し勝関の法を被行し今ハ至て
放生會の儀勝関の法等故實有り此ハ流の神幡ハ筑
紫胎形明神自織給ハる所ハ幡あり故ハ宗形明神と
ハ号し又織幡宗形明神とハ号し又宗像八幡とハ号

了社地の邊小新羅人の頸塔有り云る宗形明神と
云社名小神功皇后應神天皇を祭ると云ハバ社名小
合ざるガ如ク然ルバ社名小任めて此三女神の事ハ
漏せる者あり次小三流の神幡を云るハ各一神小一
幡を充て三女神の御（小神功皇后應神天皇ハ後小配祭ル）かる事知る次小又此八流の
神幡ハ筑紫胸形明神自織給へる所の幡ありと云ハ
征韓の御幡ハ（小）宗像大神の御霊（小）として建させ給
へるガ後小譽田天皇の御形として祀祭給へるハ
其本ハ彼神の織せ給へる事と心得たり者見ゆ
若も其八流ハ右の三流（の幡の事）を云由（云）れば八幡ハ（イカバタ）弥幡の

義ある事申すも更あり若て此小右の神幡を祭らせ
給へるハ神功皇后の御所爲かり此小織幡八幡の神
号御在り坐を以て元ハ唯件の御幡を齋奉らせ給へ
る祢るるを知べし又仁徳天皇四十一年十一月小上
縣郡三根郷木坂山ふる式（大）の和都美御子神社（大）神
の地小始て神功皇后の御社を建給ひ繼体天皇御世
小應神天皇を其御社小合せて令祭給へる小右
の佐賀村ふる胸形明神の神幡を以て神体（大）爲る故
小八幡宮（小）申すと云り是應神天皇を八幡大神と祢
奉ら始ふりと雖も其始宗像大神の神幡小起る事

八幡宮ハ三神ノ
渡ル七給ヘル小幡
艾記ノ想テ八幡
別宮ニ稱シテ
深キ上旨有リト云
ヒ又同國式外

からガ故小然定リタル後小猶宗像大神をハ八幡
の号を以て祭ル社ニ國ニ不在アリ然るハ神名式山
城國宇治郡宇治彼方神社を風土記小宗像神也ト有
小此を離宮八幡ニ申シ又安房風土記小磯路八幡宗
像明神也ト云ヒ又止小云る安藝國ノ王依八幡宮を
どの例多キ事アリヲ以テ知ル又式ノ相模國高座神社名神大を
一宮記小八幡同体ト云カド式内
の諸社小祭神をハ幡宮ト云るハ皆三女神ト聞リ應
神天皇ノハ別小八幡ノ神号を以て奉奉ルリ委トク
ハ傳十五卷小註セる下野國寒川郡胸形神社讚岐國
寒川郡神前神社ノ下小云る事共ニ合セ見ベキカ
リ諸北三女神ハ神代ノ御神アリ然る小後小應神天
皇ノ神託有テ宇佐宮小鎮給ヘル御事ハハ少縁ノ

御契小渡ルセ給ふトク決メテ深キ所由御在トク坐
バキ御事アリ然るハ清和天皇實録小載ルレタル負
觀十二年宗像大神告文小我皇太神波掛毛畏岐大帶
日姫リ彼新羅人子降伏賜時ル相共加力倍賜天我朝
子救賜北宗賜利奈而今如此ハ押侮氣色子露出事波最
是皇大神乃聞驚岐怒惠利賜信物奈見利えたる此ハ
紀記共小且トク見ル可キ所無キ事ルレトク雄略天
皇九年二月御記小遣三凡河内直番賜與米女祠胸胸方神ト
有テ下小三月天皇欲親伐新羅神戒天皇曰無テ由
是不果行ト有テ征韓ノ御政小就テ胸方神を令祠給

へるふて神命を令請給へるるり神功皇后の御趾を
逐ハセ給へるふ非ずバ何を殊更ふ此小胸方神を指
て祭らせ給ひむ此小因又立返りて思ふ小仲哀天皇八年御紹
小神託皇后而誨曰云くと有て征韓の御政を弊め奉
給へるハ若くハ此宗像大神の神託してハ非るハ神
功皇后御紀小先日教天皇者誰神也と請聞かせ給へ
る神名の中ハハ紀記共小所見すと雖も傳十五三百
丁小註ら加く其御紀の松浦河樞日浦小ての御
祈ウケヒの事をハ幡愚童記小巖島宗像西神の御事云る
を以て考北バ始り其全体の事ハ宗像太神の御心

小坐故小御名の其所小ハ脱たるる可く其神哀
天皇の神言を疑給へる所小其汝王之如此言而遂不
信者汝不得其國唯今皇后始而有胎其子有獲焉と見
えたる是若右小云り如く宗像大神の御心小坐さバ
其應神天皇ハハ其大神胎中御在り坐け時よ
り御心を係させ御在り坐り御子かろが爲小後小右
の三女神の鎮坐り字佐宮小後小顯ハ此御在り坐て
共小其字佐宮の大神と成り給へりけむとを
所思えたる其ハ寶鏡劍出現章第六一書小大己貴神
の幸魂奇魂神の顯ハ給へる事有り令欲
何處任耶對曰吾欲住於日本國之三諸山故即營宮彼
處使就而居と有ハ神名式小大和國城上郡神坐日向

神社大月次新嘗と有る御社小て大己貴神の守護神
とて持齋ハセ給ふ神小坐り若て出雲神賀詞ハセ乃
大穴持命ハセ申給久皇御孫命乃静坐牟大倭國中ハセ天已
命和魂字八咫鏡を取託天倭大物主櫛履玉命登名乎
稱天大御和乃神奈備坐と有ハ其ハセハ遠小後小
國避の時小て其神社ハ式小大神大物主神社名神大
月次相嘗新嘗と有る是なり其幸魂奇魂神と申す一
神御在坐て大己貴神の大造の功績を助幸給へる
神小坐故小己く鎮奉り置しけり此國避の時小至
てハ其幸魂奇魂神の御在坐す所を指て巳命の御
魂も共小並坐小等しく宇佐宮の三女神ハハ宗像
大神と同一く坐て神功皇后の韓國御言向の御事小
就てハ第一小廣き厚き靈威を蒙り給へり大神小
坐るを其韓國ハハ胎中天皇小授り給へる地を
り右の由を以て神功皇后應神天皇共小宇佐宮小頭
ハレ御在坐て共小鎮り坐る御事猶大己貴神の和
魂を幸魂奇魂神の御許小鎮り坐る小異なりと有る者
るハセ諸如此く此比賣神の御事小副て八幡大神の御
事よぐて入交へて長く説成り奉る事ハ今世小
天下小八幡宮計り多きハ無きを一人として其由來

六幡本記
一殿ハ即八幡大
神を祭り奉る
所小て相殿
ハ仲哀天皇
鎮座し給ふ
見たり此神号
ハハハ

を知れる人の聞えざるが甚く
心苦して止事を得ざり故かり
○八幡大菩薩宇佐宮
名神ハ式小筑前國那珂郡八幡大菩薩宮崎宮名神
所見えたると同例小て八幡大神の坐す宇佐宮崎
宮と申す心かり大菩薩と云稱を以て掛りくも畏き
大神の大御名を汚し奉る事甚可畏し續紀天平勝寶
元年十二月の所小八幡大神と記され其告文小も豊
前國宇佐郡坐廣幡乃八幡大神と有り其後の御史
共小も八幡大神と出たるを其間小大同三年七月の
大政官符小八幡大菩薩宮と有り又常小ハ大神と申
す所を大菩薩と云ると其後小も猶大神と記された

るも彼是見ゆり仁明天皇御紀以後ハ皆大菩薩
 小て大神と有ハ一所た小見えざる有ける歷朝詔
 詞解小抑此聖武天皇孝謙天皇の御世ハ然討り甚
 しく佛を尊み給ひて神をバ佛の奴の如思せしりど
 此猶此大神を大菩薩と申せる事ハ無りしと思し
 て此紀ハ見えたる事無きを何時の御せりりハ
 然る禍くし御号ハ負せ奉りけむ甚き忌こしき御
 事あり諸此大神を廣幡のと申すハ甚愛たく雅びた
 る御号あり小後ハ此御名ハ隠れて世小知れる人
 無が如く又八幡と申すを唯字音ハのく唱奉りて

△但大菩薩大女
 と訓し即大菩薩尊
 の御事あり宇佐
 宮ハ三女神の御事
 小て此の比賣神
 社大帯姫命(齋)
 社を合せて云ふ
 有む其ハ大同類
 聚方六十五卷ハ日
 女樂味泉國日山嶺
 郡菩薩神社と
 有武小謂ハ日根
 郡比賣神社是
 又名義抄ハ
 菩薩を美女也
 注せハ日女と訓ハ
 手書知ハ然れ
 ハ幡大菩薩は宇
 佐宮と云ハ大神を
 大菩薩と心得ざ
 りハ以前ハ三社
 を合稱ししを

夜波多と云ハ唯此大神を祭らる社の有る地名小の
 此彼小残れる其將皆波を音使小任せて和唱ふ
 る事木幡などの如く此ハ幡小依れる御号あれば波
 を正しく葉ふなどの如く唱奉りて諸彼禍くしき号を
 止て古の如く廣幡ハ八幡大神と正しく申奉り將欲
 き事ありしと云はれたるハ實小然る言小あり有け
 る今思ふ小元亨釋書最澄傳小弘仁五年春詣宇佐ハ
 幡神宮講妙法華講竟神託云不受法味又歷歲華今
 聽微言何以報德我有法衣願表觀達乃啓齋殿推出紫
 衣二領神宮巫祝各相謂云我等未嘗見如斯靈感也
 云ふ矣傳有り傳十五卷二百三十四丁同國田川郡志
 骨命神社の下云ハ如く彼妖僧此彦山のくかす
 香春神社豊比咩神社と式内の神社を殘らす佛地
 と成む謀を巧みける小國郡司百姓殘らす欺られて

後小佛小謂り
言は薩摩と思成
一奉りたり比高
神社大帯姫之廟
社の号は別小與
札の号は別小與
八幡宮小言は薩
早くと奉りて
の非なる事知る
なり

其妖説を朝廷小迄及ぶ奉れり事有れば其項土人
ハ然る詐偽とも心着ずして信居たりしと見ゆれ
バ何れり廻し者を仕立て此宇佐宮小ても然る禍
しき神託を体能く梅たりつ小竟して神宮の巫祝
等何の辨も無く實小靈感有し事と心得て諾ひたり
けし此を以見ろ小此大菩薩と云ふ禍くしき御名
ハ彼最澄僧が佛法を弘むる新作小出たりし者か
を公小も彼僧小欺りれさせ給ひて日吉神社を佛地
小成されし程の御事なれば終小彼が辨口小任せて
八幡大神を大菩薩と申す事と自然成給ふ可き時勢
ありを察しむ可し寔小神託と矯りて天津日継小登
祖師と仰ぎ居り世中と思へば後此妖僧ありと一宗の
浅ましく口惜くるを此八幡大神と称奉り
小種々の異説有り先宇佐宮古記小欽明天皇三十二
年癸卯二月十日即豐前國宇佐郡菱形池の邊小神在
て三歳の小兒小託して大神比疑小告て曰く辛國城

地名也在大小八流の幡降る我ハ日本人皇十六代譽
偶國曾於郡跡を
田天皇廣幡八幡麻呂かり諸國所く垂て神と成る
と告給ふ此より前小同國下毛郡野仲郷の靈池小
て宇佐公池守と云人小も神託有り又宇佐郡神山小
て小靈威を示し給ひ或ハ馬城峯小て神光を顯し給
ひ神異屢有けるが始て神と顯れ給へり是即應神天
皇の神靈を以て八幡大神と号するの始ありと有り
此事註式小も舊記云とて出又八幡本記小も取捨し
て載たりと雖も全くハ信くれぬ事共かり其辛國城
八流の幡の事ハ註式五所別宮大隅國正八幡宮の下

小正宮者始在大隅國西八流幡後主豊前國坐守佐郡と有
 を家記云人皇三十代欽明天皇五年申子頭座と見えたる
 此に始て幡を神体として此に祭り其を西にして守
 佐宮に祀祭れり其宮を以て至と爲る由と通え
 たり此を以て零降る非る事を知べし右の野中郷
 の聖池ハ八幡本記小是大貞薦社大貞薦社三角池也と云り又
 其馬城峯の神光の事ハ上六十小云る如く此ハ三女
 神の御事あるを混同せる者あり但註式小或書曰豊
 前國守佐郡菱形山廣幡八幡大神坐郡家東馬城峰頂
 云々と有此に三女神の神代り此峯峯に御在り坐け

る御許に始て移り也給へるにて此を神託に因て
 乞はせ給へる宮處ハ御在り坐べき但此ハ宮處の
 ずハ幡の事を主と云所あり儲又一説ハ白と紅と
 八面の幡降るの瑞有り此故ハ八幡大神と号すと云
 い又一説ハ應神天皇降誕の時ハの幡降るの瑞有
 依てハ幡麻呂と号奉る此故ハ守佐の神託も我ハ
 廣幡ハ幡麻呂ありと宣はり因てハ幡大神と号すと
 也共小云ふ足ざる事して彼ハ流の幡の降下る類
 あり者儲八幡と申すハ上六十小註せる對馬國上縣
 郡佐賀村に神功皇后の祀給へる宗像大神の神實の
 御幡三流有つるあり神名式の同郡和多都美御子神
 社の社傳小繼休天皇の御代小應神天皇の御靈を始
 て其木坂山に崇奉らせ給ふ時右の佐賀村に所祀る

大隈蔓根字佐
 宮雜儀引肥後
 志略山本郡圖臺
 寺村條小其形池
 の洞の中在る池
 是ハ八幡大神始て
 出現の地と云り里
 俗傳云池形自
 然心と其形似る
 田畔小經の傍ハ小
 池有り巨四尺長ハ
 九尺深さ不足野
 水此池の形も其交ハ
 似たり古所謂菱
 形池是なりと云
 菱形ハ幡岩洞白
 龍宮居云ふ前ハ
 拜殿有往古ハ大社
 ありと云り然
 る時ハ菱形池肥
 後と云を正説と
 云べし

三流の神幡を以て神体と定奉る不_レ因て社号を八幡
宮と号け奉る然る不_レ欽明天皇三十二年辛卯歲不_レ神
託有て豊前國美形池不_レ倉山の邊不_レ住給ふ可き由告
給ふ不_レ依て即神託不_レ任せ宇佐宮不_レ勸請し給ひ直不_レ
木坂山本社を号を取て八幡大神と号し放生會等の
神事をも共不_レ移さしぬ豊前國宇佐八幡宮并放生
會等の神事ハ根本ハ此木坂山より起り木坂山八幡
宮の神号并放生會の神事ハ佐賀村胸形明神の神幡
及武内大臣の放生より起れる者あり取と云るハ然
意
と有ぬ可き古傳不_レるむ不_レ寺清先が老牛餘喘不_レ雨森

芳洲云凡八幡宮諸國不_レ多く候へども對州の八幡宮
根本不_レて候宇佐ハ其後の事不_レて候神功皇后新羅を
退治して歸朝の時御旗ハ流殘し置給ひ此後我が精
靈を此幡不_レ殘す間此地の守護不_レ到可_レ申候夫故土人
其御旗を祝ひ候て廟を建申候依て八幡宮と申候云
こと有り少ク云様ハ異なりと雖も八幡大神と申す
御名の彼國不_レ殘れる事一不_レバ予此を以て正説と
立る者あり但八幡の故事ハ實不_レ然しと所思る事ハ
此れど放生會の武内大臣不_レ起れること云
ハ未佛教の渡參來ざりし以前不_レ然る事の有べくも
非ざれども石の社傳を載たり對馬人の稻荷勸請に
云不_レ八幡本記不_レ八幡大神の放生を命し給ふハ專横
死の者を救給はむとの神慮なる可きを佛家よりハ

最勝王經放池魚の説かど附會せるや古郡鄂の民
正月の且を以て鱸を簡子小献ず簡子大悦い厚く
此を賞す容其故を問ふ簡子が曰く正且小生るを放
つハ恩有る事を示すか曰君の放つを好めるを
知らば民競ひて是を捕ハ却て死する者多かるむ君
此を活さむとありバ民子禁して捕る事命る令る小
如く簡子其言を聞て理かりとせり云くど列子を引
て云るを難して此ハ放生會の對馬島して武内大臣
より起るるを不知偏小託宣依て始れりと思ふ
りして非とせり神功皇后神教小從ひ新羅國を征討
して多の人を殺給いしハ神聖の怒バせ給ハざる理
あるが故小献首を以て島首明神小献て後ハ首を
て首塚を築キ諸榮螺の屈曲せらる新羅人の頭髮を
曲結せらふ似たるを以て榮螺を放て新羅人の非命
を放小象り給へる者ありと云るハ如何ハしき事小
てし有んども若古より然る事の有來れむハ斯
る由小も有 儲右小引る宇佐宮古記木坂山社傳共小
打合て神託小因て宇佐宮小鎮坐す事ハ欽明天皇三

十二年辛卯二月十日辛卯あり儲上小引る註式の趣
小據て考る小其時ハ三女神の神代より鎮坐す馬城
峯ある謂ゆる日定里小合せ祀りけり又八幡本
記宮柱穴條小倉山の東連巖の中を深き穴口有
り徑一尺二寸底小入事七尺有餘是ハ八幡大神始て
鎮座の時宮柱を立し穴ありと云ふ大祭の祝文小菱
形耶小倉山之下津石根仁宮柱太敷立と云る此
所の事ありとぞと云り是等二轉あり又宇佐宮古記
云ハ幡大神菱形池の邊小於て神と顯給ひて百四十
一年の後和銅五年より鹿島居瀬社小鎮坐座坐ける事

五年有て元正天皇靈龜二年より又御移有て十年御
 在り坐す大神諸男辛島勝波豆米大神の御心小後奉
 りて小山田の神殿を作つて祭奉りし靈龜七年託宣
 し給ひけりハ我鎮座する小山田社ハ其地狹隘ハ我
 菱形山小移しむと願ふと有しハ六年を経て後聖武
 天皇神龜元年小豐前守男入從七位下藤井連毛人勅
 を奉りて小倉山小神殿を造奉り同二年正月廿七日
 小神田二町七段を進上す天皇祚宣小勲十等を賜ふ
 と有り此時創立有し小倉山の神殿ハ即今宇佐宮上の
 地是あり小倉山ハ即龜山ありと有り又註式小聖武

天皇神龜四年歲次庚申就此山峰奉造神宮因名曰廣幡
 八幡大神宮之見えたるハ此時の事と聞ゆハ全ク
 の鎮座ハ此年ある也又八幡本記ハ八幡大神の祭
 神と顯ハル給ふ事卯年卯月卯日ありハ因ハ是
 りり以前皇田の御陵の側ハ御社を被建しハ欽明天
 皇二十年己卯歲あり又此より後清和天皇貞觀元年
 己卯歲石清水小勸請有りき然レハ卯日を八幡宮の
 祭日とし侍る事深キ理有る事あり石清水皇田宮ハ
 この縁起ハ卯日を祭日とするハ八幡大神降誕の日
 あり由記せるハ大なる誤ありハ八幡大神誕生の日ハ
 下亥あり日本紀ハ所見たりと云り又思ふ小公事
 根源るど小宗像祭四月十一月上卯日と有り若くハ
 此ハ三女神の御在り坐小依て然卯日を被用るハ
 無キ其大帶姫廟神社名神ハ八幡本記小嵯峨天皇弘
 仁十一年小神託有て同十四年癸卯歲始て鎮座し給

下八十五丁小云ろ
 を考合す可し

いしど、ヤと有ハ宇佐宮古記の傳ある可し上六丁
小引る續紀より始て平城天皇御紀小大同三年秋七
月辛巳朔丙申大政官符略中大菩薩並比咩神封一十四
百十戸宣納府庫者豊則國符偁神宮司申云比咩神之
封六百十戸之物與大菩薩封物共納府庫略下と見え
ルバ猶當昔八幡大神と比咩大神と二柱の御在
坐しりけり然レバ其より十五年有て筑紫の檀日
宮より勸請ルらる可し其ハ類史小嵯峨天皇弘仁
元年十二月壬午遣参議正四位下巨勢朝臣野足奉幣
八幡大神宮檀日廟賽静亂之禱也弘仁十四年十一月

庚戌差左兵衛督從四位上藤原朝綱使奉幣於八幡
大神檀日廟と有る此八幡大神ハ宇佐宮の御事ある
が此後ハ八幡檀日の西所を兼て御使を奉遣し給
ふ常ハ此也此時ハ檀日宮より此宇佐鎮奉祀
りけむら大帶姫廟と廟字ハ被用たるあり可し已
小天平九年の御紀小香椎廟と有りハ宮社の御會
釋るらずして廟堂の如く饗應奉祀也給へる其ハ
幡大神を以大菩薩と稱奉り給ふ計の事ありけれ
バ其項より宇佐神宮ハハ漢狀佛様ハ終小成竟
ぬる者あり陽成天皇實錄小元慶三年三月十六日

西午豊前國八幡大菩薩宮前殿東一神功皇后御前云
ニ見えたる是懺ある證あるが上小此より以前貞
觀元年小石清水宮小勸請りし此御神を合せて三
所並御在り坐るを明くむ可くあるを有ける
對馬
縣郡三根郷木坂山和多都美御子神社ニ傳小仁徳天
皇四十一年癸丑冬十一月小神功皇后の神廟を建立
し給ひ同郷佐賀村宗形明神小在る所の神幡を移し
て豊玉姬命を以て二宮と号し神功皇后を以て一宮
と号す其後継体天皇の御代小至りて應神天皇の靈
を此木坂山神功皇后の御社と同殿小崇給ひ仲哀天
皇神功皇后應神天皇仲皇后武内大臣五神を以て
合殿と号し神体即神幡を移し由て八幡宮と号し奉り
別小日本武尊軍殿と号す仁徳天皇若宮と号す菟道
稚即子新靈と号す此三神を以て攝社と号し彼佐賀村
小在る所の凱歌及身舞放生會等の神事を以て皆此木
坂山小移りて異國鎮守の靈神と崇め給ふと云り其

中應神天皇ハ上小云るが如く欽明天皇三十二年
辛卯小巳く神託の御座り坐て宇佐宮小移りて給へ
る時仲哀天皇も共小遷御し坐りて見えて八幡本
記下第一殿ハ即八幡大神を祭る所小して相殿小仲
哀天皇鎮座し給ふと有る是る然る小香推宮の御
事ハ元來仲哀天皇神功皇后の行宮の趾ありと雖り
當昔已小其宮御在り坐りて可りて次めて御世
々々を經て後小祀奉りる事申すも更り然れども
右の社傳の如くハ仁徳天皇御世小彼國小て始て崇
奉りて給へるが如くハ香推廟ハ未御在り坐りて
右の如く合殿小坐す八幡大神仲哀天皇の宇佐宮
小移りて給へる程小神功皇后小神託あるの御在
り坐て必其前後小香推小鎮り給へる若ある可
然れば此木坂山小始りて香推宮其より宇佐宮と
三度遷替りて給へりし事小顯し奉り可き事多在り
神の御事小就てハ申し顯し奉り可き事多在り
此ハ宇佐宮ハえりし三女神の御在り坐る本宮ある
小八幡大神大帶姫大神共小後小相共小鎮坐りて
至客有る由を云知せむとてあり又次小石清水宮の
御事を申せるし其小ハ八幡大神を主として三女

神と客と坐して諸國小八幡宮と申せらるる多く右小
 同しき由を豫り少註す小こも有けれ其本説ハ應神
 天皇御紀の傳○石清水宮ハ右の宇佐宮より遷奉し
 小就て云べし
 せ給ふ所ありと雖も此小てハ始より八幡大神を第
 一として齋奉り給ふが故小神の御座所も何れ同
 じりりざらあり二十ニ社註式小八幡宮三座外式三所
 内男体一女体二神功皇后玉依姬命と見え二十ニ社神体秘記
 小ハ中應神天皇左神功皇后右玉依姬命加祭神一座
 足仲彥天皇と見えたれば宇佐宮の如く八幡大神の
 相殿として仲哀天皇ハ御在り坐らりけり然るに神社本
 記小ハ石清水中應神天皇東神功皇后西三女神中本

小神宮造南小
 向り中殿八幡
 大神末殿神功
 皇后西殿北畔大
 神ありと見え又

殿并次第中西東と并す新善法又中東西と并す田中
 法寺如此是東を玉依姬三女神と傳ふ故ありと有れば左を
 三女神右を神功皇后と傳へたる説も有るありけり
 二十一社記小も抑八幡三所と申すハ中明御殿ハ天
 菩薩西御殿ハ神功皇后東御殿ハ玉依姬命小坐あり
 取と云も右と類説あるハ有れども猶注式箱崎宮
 條小一應神二聖母三竈門と有れ中左右と云ふ順小
 て三竈門と云ハ玉依姬命小坐して右小當宮れり又八幡
 本記鶴岡八幡宮條小中ハ八幡大神東ハ息長足姫尊
 西ハ姫大神ありと見えたる此ハ石清水宮より移奉

石清水註進記
 仲哀天皇應神天
 皇之中御前
 比咩大神と西御前
 と神功皇女
 御前と正月元
 朝拜條小唱大菩薩
 三度禮拜次唱比咩
 大神三度禮拜
 次唱大菩薩志三
 度禮拜と有る右
 の如く

此所おれば殊小憶あるを上小註せらる如く宇佐
 宮ふしてハ中ハ三女神左ハ神功皇后右ハ應神天皇
 小渡りせ給へるを石清水ふてハ三女神之應神天皇
 と主客の事小因て入替奉れらのこと有けれ神功
 皇后ハ猶宇佐宮の如く東方小て左間小御在り坐す
 事著けれハ新善法寺の傳の方正しきを得たるが如
 く若て三女神ハ西方右間小ハ渡りせ給へれども其
 次第ハ中西東と云煩ある事猶宇佐宮小て西中東と
 敷ふる小異あるが如く其齋奉る石清水宮小て
 古より其事の定りざるを予が心と假初小定め申
 事ハ甚容易き様小て可畏くハ有れども正しく造

ある證有る上ハ何ぞ論つゝハざる事を得む又其論
 ひ己小如此と究りりる小ハ如何ハ定め云ざる事
 を得む然れども甚 諸宇佐宮より御遷幸の御事ハ二
 可畏き事小を 十二社註式小清和天皇貞觀元年己卯四月十五日行教
 和尚傳灯大奉宣旨法師位參籠宇佐宮同八月廿三日到來男
 山之邊一宿之間更倍信心祈願之行教和尚致誠祈請
 云々と有り此行教が由來ハ神社考小清和帝御宇有
 行教者姓紀氏武内宿禰之後也昔武内宿禰爲景行帝
 之臣成務帝時爲大臣而又爲仲哀神功應神仁德之補
 佐是故行教尤崇宇佐神憑憑教欲據帝都邊遂移于山
 城男山と有るが如く釋書小ハ釋行教武内大臣之裔也

居大安寺貞觀元年詣豐之宇佐八幡神祠一夏九旬夢
大神曰居王城側當護皇祚耳教漸著山崎其夜又夢大
神曰師見我所居俄覺使起見東南男山鳩峯上現大光
凌晨至光處實靈處也教便錄二事表奏帝詔攝工部准
宇佐祠規建新宮採と有て神皇正統記此小同右の
詔攝工部ハ註式小同九月十九日差使木工權允攝良
基造立御殿六宇三宇正殿
三宇禮殿と有る是なり其御鎮座の
御事ハ清和天皇實錄貞觀十八年八月十三日丁巳
石清水八幡護國寺申狀你故傳燈大法師位行教去貞
觀二年奉爲國家祈請大菩薩奉移此間と見え又註式

小同二年庚辰造立寶殿隨則安置御像と記し猶石清
水遷座記小同年二月九日之夜遷座男山嶺と見えた
り行教ハ髮長くて有ければ素より大神の諱せ給ふ
御事ハ申すも更ふれども大神の皇都近く御在り坐
て寶祚を守奉りて給はむと所思し着す頃ふしふ参
り合せたるふ就て大神小仕奉りし武内大臣の齋
ふても有ければ其便不就て神幸タミユキ給はるふて別か
る意有し非ず三代實錄石清水八幡宮護國寺と有
ハ大神を大同の頃より大菩薩とさへ申奉る許の事
ふて有しハ神宮と申す物の始より健シタカるる佛刹

りり〜成〜奉〜れ〜事思ふ可〜然れど神の御
心ありけ〜誰〜無く石清水八幡宮と唱來りて終
小護國寺の名をだ不知る人稀小成小たるハ然すガ
ある御事あり〜和訓栞ハ石清水八幡宮の神名帳
三代實録ハ石清水八幡宮護國寺と見え大安寺録
起文ハ行教和尚以其衲衣鎮于此以爲石清水寺伽藍
神隸于和列大安寺八幡宮有る意ある可〜元微く不
り〜源義家より源家の爲小宗重せ〜れ坐て當時
の如くハ成たるありけり〜清和天皇實録ハ貞觀三
年五月十五日戊子遣使者於近京名神七社奉幣祈雨
告文曰天皇我詔旨止掛畏ハ幡大菩薩廣前申
賜倍申云々自餘社告文准此と有り其近京名神と

ハ賀茂松尾等の大社ハ御在り坐るむを其上ハ立て
萬を先ハ爲させ給へるハ八幡大神ハ皇祖ハ御在り
坐り故ハ殊小宗奉らせ給へる者あり同七年四月十
七日ハ卯遣從五位下行木工權助和氣朝臣尋範向石
清水八幡大菩薩宮奉楯牙并御鞍告文云天皇我詔旨
止掛畏改石清水ハ坐八幡大菩薩の廣前申給止申
久新宮構造天楯梓及種々神財可奉出而神財波且奉
出止畢太楯梓并御鞍等毛急利介此子今饒造天禮
代の大幣帛令捧持天云々有て如此く兵罟を奉
らせ給へるを以て大菩薩とハ称奉らせ給へれども

此文類聚三
代格也其此
等

實の佛菩薩と云者の類小會釋ハせ奉らせ給ハザリ
けるを知べし同十八年五月廿八日甲辰令山城國每
米三十二石充石清水八幡宮護國寺永以為例同八月
十三日丁巳石清水八幡護國寺申牒俛望請准宇佐
宮永置神宮即從八位止紀朝臣御豐為之勅從之と有
を以見る時ハ全く護國寺と云ふ瓦菅の鎮守の狀を
りと雖も己小字佐宮小八幡此賣神宮寺を造くれ
し由神護景雲三年御紀小見えたれば何方小移奉り
て小寺ハ附物あるが上小此ハ行教が勸請する神宮
あり本より僧徒の持して有て神人ハ其下風小立

つのもちりしを寺家の申牒小任せて始て神主小ハ
被成たるありけり二十一社記小當宮の祠宮小ハ補
紀氏輩其後檢校別當及僧俗官皆紀氏あり武内大臣
子角宿禰の後亂あり神功應神の御代專棟梁臣と
て補佐く被申る往因ありと云るが如く此小てハ字
佐とハ別して八幡大神を主と祀奉る為小如此あり
と所見たり其字佐宮小てハ大神宇佐二氏の主と任
奉る事上六十二丁小己小云り又八幡本
記小此宮の神主ハ貞觀十八年八月十三日小始て從
八位下紀朝臣御豐を以て任せしる由三代實録小
見えたり又八幡大神宇佐より遷座の時大神氏從奉
りて來り紀氏と互小神職を勧めけるが後小大神氏
ハ絶たり八幡本記小古ハ三年小一座必宇佐宮小勅
と云り

使を立し錦蓋前劔鉞神服玉佩寶鏡等の種々の神
寶小禮代の大幣帛を令奉給ふ此禮聖武天皇天平三
年正月廿七日始て執行給ひしとや續紀小天平勝
寶八年四月壬子遣後四位下日下部宿禰古麻呂奉幣
帛于八幡大神宮と有る是國史小所見たる始なり朝
野群載小三年小一度宇佐小勅使を下し給ふ時の告
文出たり清和天皇の御時八幡宮を男山小勸請し給
ひてハ都近けれバ專此御宮小の勅使を立奉幣し
給ふ然れども猶帝王一代小一度宛必宇佐宮小勅使
を奉らる其事委し江次第十二卷小見えたり採
要

云るが如く石清水宮を建させ給へる後ハ萬小此御
宮小て執行ハせ給へる事譬へバ春日社出來て後ハ
鹿島畚取枚園等ハ立させ給ふ可き御使の御事かど
ハ大抵ハ其社小奉らる異かざるむ有ける若て
神皇正統記又公事根源等小二所の宗廟と申すハ天
照太神并小八幡大菩薩の御事かりこ云る宗廟の名
稱こそハ忌ハしき事なりけれバ小伊勢石清水と並
べて齋奉らせ御在り坐來りて今猶然るを以て御敬
信の天下の諸社小超させ給ふ御事知らる
二十ニ社
の次第小
也伊勢の下賀茂の上小在る事其始村上天皇康保三
年奉幣十六社の時より同く法曹至要枚小稱大社者

伊勢太神宮八幡宮也中社者賀茂住吉社之類也自餘
小社也云云此伊勢石清水之限りて天下の大社を
云を考若て年中の祭祀ハ八幡本記小毎年二月十一
月初卯日御神樂有リ禁中の御神樂小准て伶人小
井氏多氏文氏安倍氏此を勸むと云り又江次第小三
月中午日石清水臨時祭と云有リ日本紀略小朱雀天皇天慶五年四
月廿七日奉幣宇佐八幡宮香椎廟石清水宮依賽東西
賊徒討平之由也と有を帝王編年記杖桑略記等小四
月廿七日始有石清水臨時祭と見元元此小始て
年の例の成小たるあり又八月十五日小放生會
の神幸有リ此ハ宇佐宮小て古くより有來れる神

八月十五日修放生會石清水別當
安宗沙汰行之有
如く形計りしれ
と此

事小て有れども石清水宮小て真觀五年より始て
被行るを精大小成て紀略小圓融天皇天元二年八月十一日定
考中納言源延光仰云石清水宮來十五日放生會宜仰
雅樂寮准諸節會音樂官人學唐高麗樂人舞人等從今
年永供彼會者又仰云宜仰左右馬寮十列御馬各十疋
從今年隔年令供奉彼會者又仰云放生會宜仰左右近
衛府御馬寮近衛各十人從今年隔年令供奉者十五日
庚寅奉幣石清水八幡宮使左近衛中將源正輔朝臣と
見元公事根源小延久二年より行幸小准せられて六
府以下供奉する事小成れりと有が如く漸く小公

家の御崇敬増小成れるハ實小理ある御事あり中

項中絶も有しりども光格天皇の大御代御再興有て上卿宰相辨衛存か

ご行向かせ給ひ内藏寮の御使等立て又例無き大御

祭小あり有ける石清水註進記小勅節十箇度正月一

四月八日五月五日六月晦日七月七日八月十五日放

生大會九月九日十一月上卯日御神樂神事三月三日

の二月十一月上卯ハ三女神小就たる神事ありざる

ハ上七十五丁ハ云るを考合す可し又同記小御國忌

四箇度正月廿三日比咩大神二月六日仲哀天皇同十

五日應神天皇四月十七日神功皇后おと云事ハ見少

三女神小御國忌日有ハ何小因倍八幡宮小奉りせ給

て起れる小ヤ不審し事あり倍八幡宮小奉りせ給

ふ大御使ハハも多く源氏の公卿を遣ハハるハ小就

て考有り其ハ平野神社ハ延喜格小桓武天皇延暦年

中立件社ハ有ハ大政官式を見ルハハ平野祭者桓武

天皇之後王改姓爲臣及大江和等氏人並頭見参ハ云

事有り然ルハ石清水宮ハ石小云る如く清和天皇貞

觀年中ハ建る所ハルハ清和天皇の後王ハ更ハり其

姓を賜ひて源朝臣ハ称る人ハ右の如き例共の有

て珠ハ八幡宮を崇奉ルハりけむ八幡本記ハ寛徳二年後朱雀天皇

二月十八日伊豫守源頼義其嫡子源太丸七歳あり

を石清水八幡宮の廣前ハて元服せしハ即八幡宮の智謀

氏子ありして八幡大郎義家ハ号す然るハ義家武勇

群ハ超ハるハ其子孫漸く繁榮せり其末流の輩皆義

家の由縁縁小因因の殊殊小尊尊にて氏神と稱す此よりして
こそ八幡宮を世人源家の氏神と云習習ハレシ
云ひ又中院通秀公記小元源氏神以平野社為正也於
八幡宮者清和源氏義家以來事也と有る此西説共小
未右小云り如き故實有を知らざる故小義家朝臣以來の事
と為めしども己其父頼義朝臣の元服せしめ小源太九
を連行くと云も然る御所縁有が為かれば其より已
き事を知べし東鑑東鑑小頼義朝臣の後冷泉天皇康平
六年八月潛勸請石清水建瑞籬於當國由比郷と見え
たる是鶴岡八幡宮の權輿輿なり此を以て清和天皇御

流の源氏小て古より殊小八幡宮を尊奉奉しる事を
知べく又其御靈を蒙奉りて其家の甚く榮たりし程
をも知べしと雖も傳十七四十五丁五小も云るが如く此八
幡宮を以て其氏神の如く又氏子の如く思ひ居るハ
甚敷小過たる事共かり其流小ハ始て姓を被賜れし
六孫王社京の西八條小在り其子源満仲朝臣ハ攝津
國多田院小權現社とて有り此二社小就てこそ氏神
とも氏子とも云ハド當る可かりけれ掛掛ずとも甚る
可畏き遠皇祖の神尊をしも己が私の祖神の如く思
成し奉奉しる事大神の御為小も天皇の御為小も云む

方無き無禮き振舞ふりり
思ふ小當昔已く伊勢と
當宮を二所宗廟とし
申奉る程の御事やて有しバ表向て氏神氏子あど
こハ云れぶりけり右の錦倉小勸請をすずみ酒と
云る口氣を考ふる小其深く信々奉る余り小官奏か
どを經ずして潛み我々物と祭れる小て決めて深祭
き心の至を盡されたる者あり被桓武天皇の後王の
姓を賜はれる平朝臣の平野社を氏神氏子と云れど
るを思ハバ源朝臣も其定の園ハ漏まハきを思ふ
可し然れば源氏ハ家小附て尊崇奉る可き神ハ古
よりハ幡宮ハて 偕此石清水の地ハ類史小平城天皇
御在り坐あり
大同三年正月庚戌禁理於河内國交野郡雄徳山以
採造供佛器之土也ソカニ有ハ久代河内國ハて有しあり
今麓小厄神社有る其ハ臨時祭式小幾内堰十處疫神
祭と有る山城與河内堰四と云れハ河山城國小属た

り後小も猶元の任小して其處ハ改ざりけりめども
男山を山城と爲る時ハ河内の堰より良隔れる者か
り類聚三代格貞觀十八年八月十三日の大政官符小應置石清水ハ
幡宮神主事坐山城國
久世郡云と所見たれバ其元年小大
神を皇城の近守神として祀祭せ給へり御時か
どむ其大宮敷す同ハ山城國小收させ給へるハ有
べき然る小神名帳辨疑ハ盛輪院延徳元年十月之勸進帳端書日云
、雍列級喜郡男山継弓園盛輪院本尊云と云事を
載たれバ後土御門天皇の頃ハ己小級喜郡小成たる
あめり此ハ河内國交野郡ありしを山城國久世郡

と成り三度轉して綴喜郡に成れるるり 偕又石清
水に申す事ハ八幡本記に當社の下の側小石の中よ
り流出る清泉有り此を石清水と云ふ此故小石清水御社を
宮とも号すと云り傳十七四十一小己小云るが如く此
石清水ハ元来三女神の天真名井小由有る靈水あり
が八幡大神と共小相副て鎮り坐る所以小因て必此
小しも出来しる者あり可し 偕此ハ宇佐島小三女神
の天降坐し御事を申さむとして思ふえが侘事小且
しるが如く成れしども宇佐宮と石清水宮とハ天下
小在ゆる八幡宮の本宮小御在し坐す御事ありし

其始三女神小起れる較略をし能く知る人の無き
爲小如此もで諄言ハ成つる者あり然れども八幡
大神極日大神の御事小於てハ此小主と云べき所を
ろざれば云も欲き事も多在れども其御紀の傳小註
し奉る可き者あり 偕上五十六丁宇佐島の傳りし此
り三女神の宮處ありしハ八幡大神極日大神の後小鎮
座しより八幡三所の起と成れし所由を云ひ又其ハ
幡と申奉れる神号も石清水の御事小共小三女神小
由て起れる御事を明らめむとして如此も委し云
へれども猶八幡大神極日大神の御事小就てハ此小
主と説べき事ありしと云ふ是ハざる事の有りし
者あり ○今在北海道中の今在ハ口訣小三女神先降
宇佐島後在筑前國故曰今在北海道中と云ひ通證小

今も猶云々
書小汝三神宜降
居道中奉助天孫
即為天孫所祭地
と有る如く宇佐島
ハ始天降り者也給
へり地あり道中ハ三
女神の終小落着也
給ふ所なり故小今
在と云る者か

今在者轉譯換之辭と云る是して明らかり此事傳

十五 三百二 小委く註せり ○海北ハ宇美能伎多能

と訓べし 神功皇后平年御紀小海西諸韓の字有ハ西海の義あり小同く此ハ 即北海と云事あり上小葦原中國と見えたり

其北海の意を以て廣く云稱かり備後風土記小北

海坐 志 武塔天神南海神之女子 與波此 北 出坐と有

素戔嗚尊の出雲國より伊豫國小婚嫁小幸坐る事

傳十一 三十 小云る如くある小其山陰山陽の稱を北

海南海と云る大らかり古の狀を知べし 偕此ハ纂

疏の御説小謂九州之北瀨海之地也と宣へる如く小

て第一一書小謂ゆる遠瀛中瀛海濱是なり 猶出雲風

土記おどしり北海有毘賣崎又ハ凡北海所捕雜物或

ハ凡北海所在雜物おどしり云るが如く筑紫國ハ北面

ハ海あり故小其北海と云事あるを海北と書れた

るり其事の解け難らるを倒反小北海として見れ

バ言意盡く通ゆるあり 然るを松下見林説小宇佐島

名海北一里許故曰海北道中と云て海北を直小宇佐

島と為るハ甚しき僻説あり谷重遠ハ宇佐島即豊前

國宇佐郡而在西海之北故曰海北也と云るハ何事を

宗像こそハ西海の北ハ在りハ宇佐ハ直小東小海を

受たり所あり何ぞ海北と云む又巖島道芝記あるど

小其島を海北道中ある如く云るあると悉小闇推の安

説して取小 ○道中ハ第一一書小ろ以日神所生三女

足ざらかり 神令降於筑紫剌因教之曰汝三神宜降居道中奉助天

孫而為天孫所祭也上と見えたる如く筑紫洲の北海道中の
 義あり事已上傳十六四十 小委九丁く註るが如く○道
 主貴と申奉れるハ此三女神を合せて一柱小稱申す
 御名小て其夫神と御在く坐す大國主神小相並ハセ
 給ふ稱号小るむ御在く坐ける皇太神宮儀式帳官帳
 社二十五處の中粟御子神社一處稱須佐乃乎命御
 玉道主命形石坐倭姫内親王定祝と有り其素戔鳴尊
 の御魂と申す小深き旨有べく凡て其御魂神と申奉
 るハ各其本津神の御在く坐小對へて其靈威を輔相
 奉りて給ふ神小申す事小て譬ハバ天照太神と天照

御魂神有り保食神と宇迦之御魂神有て其體と用と
 の差別有る事傳二十八卷恩頼の下小云を見て知べ
 く然れば此小御玉と有る御父大神の天下小幸給ふ
 御靈を助奉りて給ひて國土を守りて御在く坐す意
 小聞えて甚愛たし一 諸此社ハ神名式小度會郡粟
 皇子神社と有り此粟ハ傳六百十四 八丁百三十 小云る
 如く保食神を高橋氏文小安房大神と申奉れるハ其
 本國と有る粟國を以て稱奉れるあり其皇子と申す
 意小て此三女神ハ一 己小註る如く其大神を齋奉
 るせ給ふ可き日神の御命を負持せる神小渡りて給

ふが故小其安房大神の御子神と申す意小称奉川ら
 社号ありと見ゆ 然る小倭姫命世記又大同本記 小其鹽淡滿溢浦
 仕奉神子淡海子神止号互社定給支之有れバ粟御子
 ハ淡海の子神と云事小其地主神と聞えたれバ儀
 式帳の趣小合されども其淡海子神を一本小道主粟
 御子神とも有れバ猶淡海の意小非る可く又御子
 を式小皇子と作るを考ふ可く上代本記小御次神
 氷沼道主と有り細書小素戔嗚尊孫也亦名粟御子神
 と云る氷沼ハ比沼小豐受大神の丹波小古御をく坐
 地各あり道主ハ其大神小仕奉給ふ此の道主貴小
 渡りせ給へハ素戔嗚尊の孫と有こそ叶ハたりけ
 此僻事ハハ非るを縁小其始右ハ始ハ記ハありけ
 末小至りて氷沼道主素戔嗚尊之子粟皇子神之後胤
 而垂仁天皇御宇之人也と云るハ何たり僻事をや其
 次小粟皇子一名大己貴神亦名大國魂神亦名大國主
 神と有るハ余ある推當あり何の由を以て大己貴
 神を粟御子とハ申せりハハ思ふ小素戔嗚尊の御子
 と云ふ傳の有ら三女神の御事と云より思ひし

寄るるウ大己貴神 主 道生と申す例ハ崇神天皇十年
 小引付たりハ小こ道 其所領子國 御紀小遠荒人等猶不受正朔是未習王化耳其選 群卿
 遣于四方令知朕意と有て北陸東海西道丹波の四道
 小將軍を被遣ら中小丹波道主命遣丹波國と有り此
 御名古事記伊邪河宮段ハ丹波比古多須美知能
 宇斯王と見えたる丹波ハ 其地各あり 比古ハ男あり多
 須ハ發遣ハ 其道不行向ふ由あり 美知 道ハ其差て行
 く方小て即任國の事あり 宇斯 大人小て其主たる義
 ろり如此く説別て思ふ小傳十六 四十 小 例と擧て 云り如く
 道之云ハ此小ても國と云事小てハ有れども始より

其本生の地不在其地の主宰ヌシありし道主とハ云
ハ其類ハ大國主神又天孫降臨章第二書小國主
事勝國勝長狭るど有る是ハ國主と云事あり道主
とい君王の御許より差遣され幾内より數多の道路
を經行て其國小大人と成を道主と云事右の丹波道
主命の例を以て知べきなり然ルハ神武天皇御紀の
道臣命あどし天皇の先鋒として國々を經行て功有
しハ因ル者名あり右ハ同く事事ハ云ル更あり大伴氏
之遠祖日臣命師帥大來目督將元戎踏山啓行略于時勅
與日臣命汝忠而且勇加能有導之功是以改汝名爲道

臣の有る文を唯假初ハ見てハ導の功のなるが如
くおれども天皇を尊奉りて中洲小鎮奉ルるおれハ
自其主と成ると君を主と成る奉るとの違ひこそハ
有けれ其趣ハ共ハ一なる者なり
万葉十八卷小須賣
呂伎能之伎麻須久
能安米能之多四方能美知尔波宇麻乃都米伊都久
須伎波美布奈乃倍能伊波都流麻伊泥尔と有る四方
能美知ハ謂ゆる東南西北の四道を云るあるが此も
天皇の四方國を所知者て御在り坐す大御徳の行及
ハ限を云ハて此ハ必四方國とハ云ハ故右の例
ハ不四方道と云べき所あるを曉る可し
を踏て正く考ふるハ彼第一書小乃以日神所生三
女神令降於筑紫別因教之曰汝三神宜降下居道中奉助
天孫而爲大孫所祭也と有るが如く筑紫別因の北海の道

中小天降給ひて皇太神の御命を負持し給ひて天孫を助奉りて天孫の御爲に所祭らせ給ふ御尊職の御在り坐て儀式帳に所見たる如く素戔嗚尊の御魂にして其神業を輔佐奉らせ御在り坐しり國土に無く貴く御在り坐を以て道主貴といひ奉る御名ある者あり古事記御天降段に所見たる因伊都之尾羽張神を葦原中國に征伐の御使として所遣はし由を御命負せ給へる所は恐之仕奉然於此道者僕子建御雷神可遣はし其任に之を此道に有るをと思合せて明くむ可き者あり貴ハハ四神出生章に

日神を大日靈貴と申奉り寶劍出現章に大己貴神の御名御在り坐し同く事して傳八十三に註り如く貴ハ持し同く其境を有つ謂ありあり若て其を有り至貴き義に歸る者あり其所に引る武智麻呂公傳に藤原左大臣諱武智麻呂取茂榮故爲名と云ふ其意味必有るべし諸古事記の須佐之男大神の大穴牟遲神に詔給へる御言小意禮爲大國主神亦爲宇都志國王神而其我之女須世理毘賣爲嫡妻而於宇迦能山之山本於底津石根宮柱布乃斯理於高天原冰椽多迦斯理而居是奴也と有る此大神の正しく御妹妹と相嫁継給へる始あり其下小如此歌即爲宇伎由比而宇那賀氣理

而至今鎮坐也今カ有ハ殊アヒシク不纏綿アヒシク不篤愛アヒシク御在ク坐
る謂ルあるが傳十五三百二十四丁云ク如ク大國主大神の
御政ル半ハ此大神の相預アヒシクハウセ給ハルバ其大國主
小相對ヒて道主貴クハ實不然有將欲ク御在ク坐
不御在ク坐リ若テ其夫神ハ此國土小生坐テ直シ
國土を主領キ給ハルバ大國主神ニハ申ケ可ク又其
后神ハ天上ヨリ下坐テ共ニ國土を治め給ハルバ道
主貴神ト申ク奉ル可ク實ニ靈ニ寄リ迄ニ打合ヒ叶ハ
セ給ハル御事ハ有ル御在セルカ但如此ク説行ク
る如ク思フ輩ト有ルめ可クレル其始伊弉諾伊弉册
二神ト相共ニ天神の詔命を蒙リテ給ヒて萬の物

△天孫本紀小鏡速
日命古世孫物部
阿遲古連公を水
間君等祖と有る
是より次百不此ハ
物部勝味宿禰七世
孫と有る但其父
志加賀高死穂朝
仁奉り人々
皇行天皇十公手御
紀小西列八女縣
則越前山以南望
西栗山詔之曰其山
峯由重疊且美
之甚若神在其
時水沼縣主様大海
奏言有女神名曰
八女津媛常居山中
故八女國之名由此
起也と有る水沼縣
主ハ水間君ハ別ハ
己ハ此ハ地ノ縣主に
て在リけり此
より以前ハ同

事共ニ必ニ神の御上ニ相係ルるが如ク大國主神の
此天下を有テ給ハル將右ニ異ルるが如ク其大神
と共ニ同ク御徳を以テ治めさせ御在ク坐ベキ御事
申スも更ニ此ハ怪シむ不足ス其上大國主神を
頭國主神ト申ス由天孫降臨章ハ所見タリ斯ルバ其大
國主神の后神ト御在ク坐テ道主貴神ト申ス事實
小其謂レ有ル事あり古事記ハ所見タリが如ク其
己キ時ハ大國主神ト申セども其大神ハ甚ク助
救ハルさせ給ヘル程の御事ナリを思フが其
疑ハ無ク○筑紫水沼君ハ皇行天皇四年御紀ハ次妃
可ク者ト襲武媛生國乳別皇子與國背別皇子
皇子其兄國乳別皇子是水沼別之始祖也弟豐戸別皇
子ハ火國別之始祖也と有る水沼別是あり然るハ舊
事紀天皇本紀ハ其國乳別命を伊與宇和別祖ト見

△雄略天皇三年御紀
身狭村主青
將吳所獻三戰刻
於筑紫是爲爲永
間君人所建死由
是水間君恐怖憂
愁不能自默云々
有る水間君は是
あり可

えて違へるも似たれども和名抄郷名小伊豫國守和郡三間萬と有る水沼の略と聞ゆれば其子孫の蕃息りて伊豫ふも移住りたり然る地名も出來りたりけり又國背別命を水間君祖と有り又武國疑別命を筑紫水沼君祖と有るども和名抄郡名小筑後國三瀦美無郷名小三瀦郡三瀦と有る地小依れる氏姓あり又右の豐門別命を三島水間君と有る筑後國神名帳小三瀦郡借從五位下三島神と見えたるは其れ此の水沼君の一系列ある者あり予去一甲寅年宗像詣の時家を立て柳川小至る小九三里許もや有るむ宮島村と云ふ立せ給へる三島神社小詣て神主其が宅小一

此等神は此宗像三女神と云ふ也此は古く上佐國諸郡守和御守り伊豫國守守和御守有る兵部三輪河の源流あり國流出る謂て地名と成り元正安二年實録云伊豫國守和津彦神其伊和大神と云渡せ給へるを以て此三女神

夜宿れる事有りき其時小ハ何とも心着ざりけれども今思へば其地をめぐり借通證小胸肩氏爲左座水沼氏爲右座と云ふハ筑紫の宗像神社小ての事して口訣小己小筑紫水沼君等者有筑紫水沼氏也と云る事小合れども御紀の例阿曇連の志加海神と所祭り胸肩君の其大神と所祭れりるも各其地小在て持齋く所小某等祭神是也と記する例を此ハ其水沼君等が本居の地小して素より所祭れる宗像大神の御在り坐る事著明きを神名式小此を載るれざりハ國郡司の奏上せざりハ官帳小ハ漏給へれども己小傳十五二百三十三又小記せり

るか如く本國神名帳に載る所八社許有が中三瀨
郡從五位下宗像神と有るものと水沼君等が其國に
勸請りて持齋き仕奉り来れる御社ありて此御由
縁を以て筑前の本宮にも行て仕奉れるあり可きを
口訣を始りて筑前の水沼氏を知て本國の水沼氏
を探索さるが故に此に筑紫水沼君等祭神是也と
有る其祭神を同じ筑前の宗像神社と心得たりし者
をめぐり神名式に小出雲國出雲郡美努麻神社と有る同
し三女神に小渡りせ給へれども筑後國より勸請れ
るを以て本國の地名を以て社名と成りたる者な

る小也 風土記に小弥努婆社と有る麻と婆とは常小
近く通ふ言ふればなる可し又不在神祇官と
云中小も弥努婆社と有るも同神なる小こそ備又筑後
國神名帳に山門郡正六位上三沼神と有る此とは別
して彼水沼氏の ○祭神是也筑後國神名帳に三瀨
氏社と成べし 郡從五位下宗形神正六位上玉垂媛神と有る此二社
の内玉垂媛神と申奉る此御社に三女神に小渡り
せ給へりける筑前國上座郡福成神社記に三女神既
小素戔嗚尊を奉りて出雲に降居りて神威を輝し給
ふ此小日神素戔嗚尊の惡心無き事を所知者し且三
女神を筑紫に令降り異國降伏本朝鎮護の神と成し
給ふ此時三神深く天照太神の勅を奉り一船に紅帆

を擧げ出雲鯨川より出て御鎮座の地を撰給ふ小御
船筑紫水沼小著ぬ因て其所を號けて御船山と云ひ
其邊を夜明里と云ふ三神の御船曉天小此地小著
故あり此小宮社を建て玉垂宮と稱す日本紀小水沼
君所祭神と書せるハ即此御社の事あり此より豊
前國宇佐宮小鎮座一給ふ日本紀小葦原中國之宇佐
島小降居と書せるハ則宇佐御社より夫より筑前國
室貴六嶽小移り終小宗像郡小居を示し給ふ日本紀
等小海北道中小坐す號て道主貴と云ひ筑紫胸肩君
所祭神と書せるハ則此御神の事あり偕此玉垂宮と

ハ三女神ハ風土記及日本紀の説ハ坂瓊曲玉の化
生して坐せハ此を以て玉垂命と申す神功皇后異國
御征伐の時の住吉神と相共小冥助を垂給ふ故小
後世ハ幡大神住吉大神をも合せ祭れり昔ハ宮殿美
麗にして神領も數多有けれとも乱世の時暴士の爲
小掠れ今ハ漸三百石の社領有り又何時の頃一
寺を建て御船山大善寺と号け弥陀釋迦觀音の三
像を置て三神の本尊と云ふ傳聞此宮所古譽田天皇
の御宇小大宮柱太敷立て祭給ひしより以來宮地他
處小移さず社務も亦物部氏相續き大祝部と成る又

御社の隣夜明里小印鑰神社有リ即三女の御靈を後
世小祭リ一所あり筑後國三井神社ハ物部膽咋宿祢
を祭る所あり相殿小武内宿祢坐す然して物部膽咋
宿祢七世孫物部阿遲古連詔を奉りて水沼君と成リ
三神の神主たり一時三女神を合祭りて高良玉垂宮
と云ふ是よりして三井郡の社を上高良と云ふ三潁
郡の社を下高良と云ふと所見たり是甚珍奇なり
る説あり右の印鑰神社と云ふ社号ハ下高良筑前國上座郡
あり福成神社と三女神坐する小印鑰大明神と稱
し奉れり中古より佛法の盛に行はれりより起れる名して
彼辨天女小附屬せら十五童子の中印鑰童子と云有り其を
附會して号け奉
るはと云ふを思ひ然れと右謂ゆる玉垂媛神と申奉る

ハ傳十五九百九十六丁二百十七五十一五十八丁注
一奉るが如く此三女神ハ一此第二ノ一書小所見た
るが如く八坂瓊之曲玉を一物實として化生させ
御在り坐ける神等小坐り故玉依姫命と稱奉れる小
同ト意ふる御名小渡らせ給ひて玉垂と申奉るハ瓊
端瓊中瓊尾を嚙斷せさせ給ひて吹出る氣噴の
御中小化出させ御在り坐けれむ其瓊綸より垂出
させ給へる義の御名ありけり然れハ此小此筑紫
水沼君等祭神是也と有る實ハ此玉垂媛神小が渡
渡らせ給ふ可き然して傳三十百十小引る播磨風土

記小玉帶志比古神玉帶志比賣神命又ハ玉足日子命玉
足比賣命と有る二神ハ決ク大己貴神と此三女神と
小て渡らせ給へるハ其姫神の御為小妓神小て渡ら
せ給へる故小彦神小然る御名ハ称奉れる小て此
高良社の玉垂命ハ大己貴神小て玉垂媛命ハ豊比咩
神社名神小御在一坐小て其豊國の宇佐島小御在一
坐す謂ありけり若て又右小社務も亦物部氏相續き
て大祝部と成ると云るハ天孫本紀小饒速日命十四世
孫物部阿遲古連公水間君等祖と有る此より相承て仕奉る
事と所見たり然る小此許り止事無く御在一坐す大

神の官帳小漏させ給ひて唯三井郡高良玉垂命神社
名神大の三朝廷の御思えも此上無一て甚く御隆一え
坐すすハ其阿遲古連公の高良山小令坐奉られ一よ
より一の事あるを其を上高良と申一此を下高良と申
して彼此の差別を立られざる状あるを官より其三
井郡ある小て祀らせ給へれとも此兩所小相亘る御會
釋とも申す可き其上國府ハ高良山の麓小ても有
り尔後國司の任國小在て祭るも其近き方小ハ
親一と奉る理あるハ三瀦の方ハ御天降の舊地小存
して萬ハ其高良小て執行ハれ一ハ却りて主張たる

事とい成れりけむり然れハ此筑紫水沼君所祭神
是也と有ハ謂ゆる上高良下高良兩處を併せよと見
むも強事ハ非トとぞ所思ゆる其ハ水沼君ハ右云
筑後國神名帳ハ載たると文徳天皇齊衡三年六月十九日官
符ハ小笠原高良玉垂神祝外ハ初位下物部大繼と云人名出た
り此を以て三潯郡なる高良玉垂命神社ハ仕奉る事を
知べし備此社記ハ去年安政五年八月筑前國福成神社
ハ於て得る所なり去一嘉永七年此邊を通りくど
も御船山の此御社ハ詣奉りなぐ然る事と一も知
さりけること其よりハ御三井郡高良玉垂命神社秘
可畏りけり大なる表ハ之せ御在り坐す御事と成れりける備此
を神名帳頭注ハ社解云三所中殿高良左八幡右住
言と有れども其ハ玉垂命を武内宿禰命と爲る説ハ

因まる後世の事ハ社記ハ物部瞻咋宿禰を祭る
所なり相殿ハ武内宿禰坐す然りて物部瞻咋宿禰七
世孫物部阿遲古連公水沼君と成り三神の神主たり
時三女神を合せ祭ると云るハ實ハ意表ふる事ハ
て却小正一も傳説と聞えたり備瞻咋宿禰ハ天孫本
紀ハ鏡速日命八世孫物部瞻咋宿禰十市根大連之子此宿禰
志賀高穴穗宮御宇天皇御世元爲大臣次爲宿禰奉齋
神宮と有て成務天皇御世ハ朝政を申りて石上神宮
小仕奉りれど大夫あり仲哀天皇九年御紀ハ檀日宮
少て天皇の崩御坐り所ハ皇后詔大臣及中臣鳥賊津

連大三輪大友主君物部騰咋連大伴武以連曰今天下
未知天皇之崩若百姓知之有懈急乎則命四大夫領百
寮令守_二宮中_一略と有る此を以て其頃の重臣して御在
一坐し事を見る可し貝原氏の和尙雅も高良玉垂
命是物部氏祖神也と有て玉垂命を其祖神と云事ハ
如何ふれとも物部氏の神を祀ると云ふ必受る所
有て云るも可き武内宿禰命の事ハ神名帳頭注小
人皇四十代天武天皇白鳳二年二月八日依託宣勸
請と有る是其相殿に坐す始る可し然るを同書小
引る師時卿記小江師云高良大明神者武内大臣也下

高良玉垂命也と云ふ説起りてより以降此高良玉垂
命神社を人皆武内宿禰命とのこ思ふ事と成て物部
騰咋宿禰命の事も玉垂命の御事も隠るひ果たる
ふい甚淺よりき事なりける又其師時卿記小右の江師
の説を非として高良者藤
大臣連保之御事也神号曰高良玉垂命以乾滿兩珠令
奉行之故奉号玉垂住吉大明神之化身也と有る云云小
も足ざる僻事なり彼征韓の御時あど小藤大臣連保
と云る人ハ何處ありハ有る時世も辨ハざる忘言か
り又乾滿兩珠を奉行せしと云て玉垂といハ如何ハ
号く可き其上彼兩珠ハ神代彦火に出現尊の御事
ルニよりハ有けれ更ハ藤大臣と云る人の縦や有つしむ
くし小更小係づくし可き事ハ非る者あるをや又
右の上高良を武内宿禰命と云説も違へし社記ハ見
えたる上下ニ社共小玉垂命ハ坐て主神して渡りせ
給へれハ上高良もて其神ハ白鳳二年癸酉より從
祀と成給へるあるを俗に此宿禰命の名高きりし終

小思誤たる僻事を受傳たるか
とけり凡ての諸説取り足す
此高良神社ハ右の如
く物部瞻咋宿禰を主神として武内宿禰命御在
し坐せとも物部阿遲古連公の三潞郡ふる玉垂宮
より此三女神を遷奉れる後ハ大己貴神をも合せ奉
りて表立たる社号を高良玉垂命神社も稱奉れる
上此二柱大神ふむ甚主くも神ハ渡らせ給へり
ける注式ハ人皇七十四代鳥羽院天仁二年起十一月
師時卿記云三所内叱咩大神應神天皇御娘云々
有る應神天皇御娘と云事ころハ信られさしけれ
三所の中ハ叱咩大神の御在し坐と云事ハ
六訂ハ注し

明らか奉るる如く八幡賀茂等して此三女神の御事
を玉依姬命と申し又叱咩大神とも稱奉れり此玉
垂媛神ふむ決く此叱咩大神して此ハ筑紫水沼
君祭神是也と有る正しく當らせ給へりける此を
上高良と申して三潞郡ふるを下高良と稱奉り其神
名を玉垂媛神と申奉るも玉依姬命と申すハ等しく
媛字を添て申せるのこしと正しく玉垂命ハ並給へ
る豊比賣神して御在し坐す御事を明し奉る爲なり
き猶民部省圖帳ハ筑前國志摩郡高良玉垂宮神
貢五十九東天祿二年辛未三月依佐理之私願告口奉

神貞（所祭）五十九東玉岳命也天平年祀武内宿祢荒木田
襲津彦為相殿と有天平年中祀れる小天録小
至りて大戴佐理卿の神貞を奉るれとあり備此玉
岳命の本社ハ此筑後國高良ありけれハ其より勸
請れりける事申すも更あるが此小正しく武内宿祢
命父子を相殿小爲られたる以て玉岳命と其武内宿
祢命とハ大小係離れる別くある事を明らむ可し備
此玉岳命を二高良小令坐奉るる物部阿遲古連公
ハ饒速日命十三世孫物部麻佐良連公の末子して兄
物部鹿鹿火連公ハ向金橋宮御宇天皇御世為大

連と見え次小弟物部押公連公檜前廬入宮御世（宇為）
大連と有て右の二人ハ安閑天皇宣化天皇の御世小
専仕奉るれ一人ありけり然るまハ此末弟あり一人あ
りけれハ欽明天皇御世と小任小赴りけり時三瀨
郡より遷奉られて其七代の祖物部瞻咋宿祢の神靈
と共小合せ祀りける可くこり但此宿の御靈を
今知べくと雖も若くハ神功皇后の征韓の御時ハ
此小留りて彼熊襲を押し此小守衛りれりあると
由れるある可し肥前風土記小昔者纏向日代宮御宇
天皇巡狩之時御筑紫國御井郡高羅行宮と有て天皇
本紀小景行天皇二十六年八月物部瞻咋宿祢女五十琴
姫命為妃生五十琴命と云事も有れハ其御由縁りて
已く瞻咋宿祢の此小居給りて九國を鎮給り功を賞
て後小祭りて給へるよや斯れハ其より以降鎮臺の守城

在此少設られたりも知べくず高良社説少武内宿祢命此地少居て九國を鎮めたり由云り此應神天皇九年御紀少遣武内宿祢於筑紫以監察百姓と有る此時の事あり可し

神階の御事八桓武天皇御紀少延暦十四年五月丁卯壬申筑後國高良神奉授從五位下と有る是始なり仁明天皇御紀少養和七年四月丙午朔丙寅授筑後國從五位下高良玉垂神從五位上高良玉垂神從五位上同八年四月辛丑朔甲寅奉授筑後國從五位上高良玉垂神正五位下嘉祥元年十一月丁巳朔戊午奉授筑後國正五位下高羅玉垂神四位下文德天皇實錄少嘉祥三年十月乙巳朔辛亥授筑後國高良玉垂命從四位上仁

壽元年三月癸酉朔甲戌加筑後國高良山玉垂神正四位下同年九月庚午朔甲午進筑後國高良山玉垂神階加從三位天安元年正四位下同年九月十月乙丑朔丁卯在筑後國從三位高良玉垂命名神充封戸並位田同二年二月庚子朔庚辰在筑後國高良山玉垂神社火同五月辛酉朔甲戌先是高良玉垂神及比咩神等正殿遇失火位記皆被燒損仍今日勘舊之文案更令書之玉垂神本位從三位今授正三位比咩神本位從五位下今授從四位下又同神殊授封二十七戸と有る玉垂命ハ三女神の夫神少御在坐て此比咩神と申すハ神名式少謂ゆる三升

郡豐比咩神社大神と有る是少て玉垂命の後神なる謂
 有る者あり心得違ふ可くず此と比咩大神とを一
 見る時ハ大小古記の趣ハ合ざる者あり又三代實錄
 小貞觀元年正月廿七日甲申奉授筑後國正三位高
 良玉垂命神從一位と有て彼神名帳ハ寛平九年十二
 月三日奉授正一位と見えたるハ日本紀略ハ同日甲
 辰奉授五畿七道諸神三百廿社一作社各位一階と有る
 此御時ハ一階を増進せしむたるありけり右ハ引
二年實錄の比咩神の神階ハ此より以前ハ其神名帳ハ
 嘉祥三年十二月廿九日奉授從五位下と有て御紀ハ漏
 したるを天安ハ比咩神本位從五位下今授從四位下
 二有ハ合リ清和天皇實錄ハ貞觀元年正月廿七日甲申奉

今朝日皇盛命神
 高良玉垂命
 第三王子從五位上

授筑後國從四位下豐比咩神從四位上同七月七日庚申筑後
 國從四位下豐比咩神列於官社と有る下の字ハ上を
 誤れるあり同十一年三月廿二日筑後國從四位上豐比
 咩神進正四位下と有り然る同六年七月廿六日授貞
 觀六年七月廿六日授筑後國從四位下豐比咩神從四
 位上と有若此の如くハ其元年正月あるハ行
 ハれざりしして其七月の從四位下ハ本の任ある可し然
 れとも玉垂命ハ右ハ注る如く大己貴神とて比咩大神
 ハ右の豐比咩神ハ渡りて給ふ御事を知らずハ有べし
 俗神名帳ハ山門郡從五位上嘉春日皇盛命神第三王子
 從五位上淵志命神第四王子從五位上給上命第五王子從
 五位上娜男美命神第六王子從五位上安子音命第八王
 子從五位上安樂應寶秘命神第九王子と有る御子等の
 御名坐り然れとも多くハ地名と聞ゆれハ各其神名の委き
 事ハ今辨可き又福成神社記ハ景行天皇の御世ハ熊
 籠皇命ハ應ぜず故ハ天皇自西ハ行幸成て征ハ
 給ハ此時三女神殊ハ冥助を加へ給ハ國既ハ平らげ

り天皇大小悦給ひ皇子國乳別命をして三神を令
祭給ふ此小於て國乳別命專信心を凝して仕奉給ふ
初三女神水沼より豊前國宇佐小至給ふ時小筑此系
の大河の邊小假小憩息ハせ給ふ所有り實小清淨の
靈地多れバ國乳別命丹誠を凝して此小始て御座社を
建て三神を勸請セリ是則當社福成大神あり棟と
見ゆ此景行天皇の西征ハ其十二年御紀小秋七月熊
籠衣反之不朝貢八月乙未朔己酉幸筑紫九月甲子朔
戊辰到周芳沙磨略と有る此御政を申すあり此時
此小賊徒退治の御爲小三女神を其沙磨の池小祀ハ

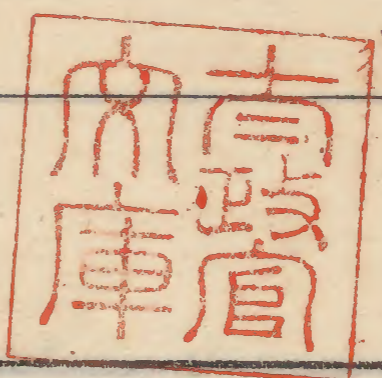
て勝間神社と申すを定奉らせ給へる由已小傳十五
四百四十八丁小注せらる如く然して皇子國乳別命をして
三神を令祭給へるハ上百一少注し奉らる三潞郡小
る玉岳宮の御事ふるハ御紀小國乳別命皇子是水
沼別之始祖也と有ふて知られたり社傳小此時周防
より豊前小移りて三女神を祀り土蜘蛛を誅伐筑
前小入給ふ上座郡大庭村小日代宮の前と云所有り
景行天皇の甜息ハ給ひ所と云り又其邊小討熊
野と云所有り天皇熊籠衣を討む事を議給ひ一處と
云ふと云り此ハ御紀小合すと雖も唯傳の任小云ふ
右の豊國小渡りせ御在り坐て三女神を

祀らせ給へる謂ゆる宇佐國の御事なりて即神名式小
豊前刑國宇佐郡比賣神社名神大と有る是なり借其大
庭村ハ其福成神社の立せ給へる地村より十町許上
方ハ在り吾徒竹内重任此ハ寓居せらるる宿りて右ハ
云々地名共と尋る小現ハ然ッ号くる借國乳別命の此
所有れを偽とハ云々云々云々云々云々云々云々云々云々
ハ始て三神の御社を建つれたる其三瀨郡なる玉垂
宮より勸請られたる少て其神代の御跡ハ御社を
取建て皇居の近き守護神として持齋を奉らせ給へ
るなり借此御社を福成神社と稱奉られ一所以ハ一
ハ社傳ハ神功皇后筑此系ハ下り給ハ三女神の冥助
有て熊龍衣を平げ羽白熊龍鳥を誅し給ハ此時皇后當
社ハ詣て此御神の加護ハ因て大ハ福成めと悦ハハ

せ給ハ此より其地を福成と云ハハと有ハ御紀ハ元年三
月壬甲朔戊子皇后欲擊熊龍鳥而自檀日宮遷于松峽宮
と有る此時の御政なり又社傳ハ齋明天皇韓土御
退治の御時ハ皇太子中大兄皇と共ハ朝倉宮ハ坐て
當社福成大神ハ詣て韓土を令懲給ハ御祈有り此
由來ハ就て後世齋明天皇天智天皇を一社ハ合セ祀
りて今已ハ五神三座とすハ云々云々其七年御紀ハ春正
月丁酉朔壬寅御船西征始就于海路翌五月乙未朔
癸卯天皇遷居于朝倉橘廣庭宮と有る此時の御事
なり其下大庭邑嚴島神社ハ傳ハ天智天皇新羅降

伏の御祈の三女神を此地の祭給ふ今俗辨財天と云ふと云ひ又比良村巖島神社に傳ふも天智天皇の祭給ふ所あり所祭三女神ありと傳へて此三處共小里俗の今傳ふる所も右の異ふるざる者あり傳十五三百四十七十七の注るが如く此御神をしも征韓の御事成就てハ祭奉らせ給ひ來る故實小相協へハ實小然が有けし事ありト右の齋明天皇の御事小因て此福成神社の地を韓土徳と俗少云來れりト不此御社式少ハ載られずと雖も三女神の水沼より宇佐小移らせ給ふ御道次の舊跡と申し又景行天皇神功皇后齋明天皇天智天皇の御祈共の御在し坐ける甚止事無き御社ハ渡らせ給ひ少の官帳少も載られざるハ京都より送少隔在れる遠國ふる為か

也借右の注し奉れる高良玉垂命の御事成就てハ古より其説疑らざりけるを去去此御社少詣奉り神主藤原恰より其社記を得て數年の疑一時小開けて其玉垂媛命即三女神少坐す事を思ひ定めて如此く記し継ぐ事トハ成れりけり



安政四丁巳年正月二十二日始之二月七日終之右瑞珠
盟約章傳自去歲十月六日至于今日成焉凡四卷而冊數
十有四本者矣巖櫃本主人行年四十六歲稿于東武
小梅之寓居云尔

右安政六年己未三月十九日自大瀧光賢寫本到而去
年得福成神社記一本大有所發揮焉同四月二十四
日甲子書繼之

